2022

年報

Annual Report

社会福祉法人 恩賜財団 済生会東神奈川リハビリテーション病院

SAISEIKAI HIGASHIKANAGAWA REHABILITATION HOSPITAL

理　念

リハビリテーション医療を通じて地域の皆様の幸福に貢献します

基本方針

1. 質の高いリハビリテーション医療、安全な医療を提供します
2. 患者さんとご家族に信頼される医療を提供します
3. 患者さんの権利を尊重し、患者さんが参加する医療を展開します
4. 未来のリハビリテーションに貢献できる先進的なリハビリテーションに取り組みます
5. 急性期病院との医療連携、慢性期・生活期の医療・介護施設、在宅スタッフとのスムーズな地域連携を構築し、地域から選ばれる病院をめざします
6. 職員の働きがいのある病院をめざします
7. 病院として責任ある経営をめざします

目　次

病院理念・基本方針

目　次

第Ⅰ章　病院概要…… 1
1．沿　革…… 2
2．組 織 図…… 3

第Ⅱ章　活動報告…… 5
〈部署報告〉
1．診 療 部…… 6
2－1．看 護 部…… 8
2－2．2階病棟…… 9
2－3．3階病棟…… 11
2－4．4階病棟…… 13
2－5．外　来…… 15
3．リハビリテーションセラピスト部… 17
4－1．臨床工学科…… 21
4－2．薬 剤 科…… 22
4－3．放射線科…… 25
4－4．臨床検査科…… 26
4－5．栄 養 科…… 28
5－1．医療福祉相談室…… 30
5－2．退院支援室…… 32
5－3．広 報 室…… 34
6－1．総 務 課…… 35
6－2．医 事 課…… 36
7．地域リハビリテーション…… 37
8－1．医療安全管理室…… 39
8－2．感染管理対策室…… 42
〈委員会報告〉
1．衛生委員会…… 48
2．個人情報保護委員会…… 48
3．医療ガス安全管理委員会…… 49
4．事故調査委員会…… 49
5．災害対策委員会…… 50
6．医療安全対策委員会…… 51
7．院内感染対策委員会…… 53
8．褥瘡対策委員会…… 54
9．栄養委員会…… 57
10．診療録委員会 …… 57
11．DPCコーディング委員会 …… 58
12．教育委員会 …… 58
13．図書委員会 …… 59
14．購買委員会 …… 60
15．患者サービス委員会 …… 60
16．無料低額診療事業委員会 …… 63
17．薬事委員会 …… 64
18．情報システム委員会 …… 65
19．保育室運営委員会 …… 65
20．人事委員会 …… 66
21．賞罰委員会 …… 66
22．倫理委員会 …… 67
23．広報委員会 …… 68
24．NST委員会 …… 68
25．ボランティア委員会 …… 69

第Ⅲ章　医療統計…… 71
1．患者統計…… 72
2．入院患者（紹介元病院、居住地）…… 73

第Ⅳ章　研究実績…… 75
1．研究実績…… 76

第Ⅰ章

病院概要

沿　革

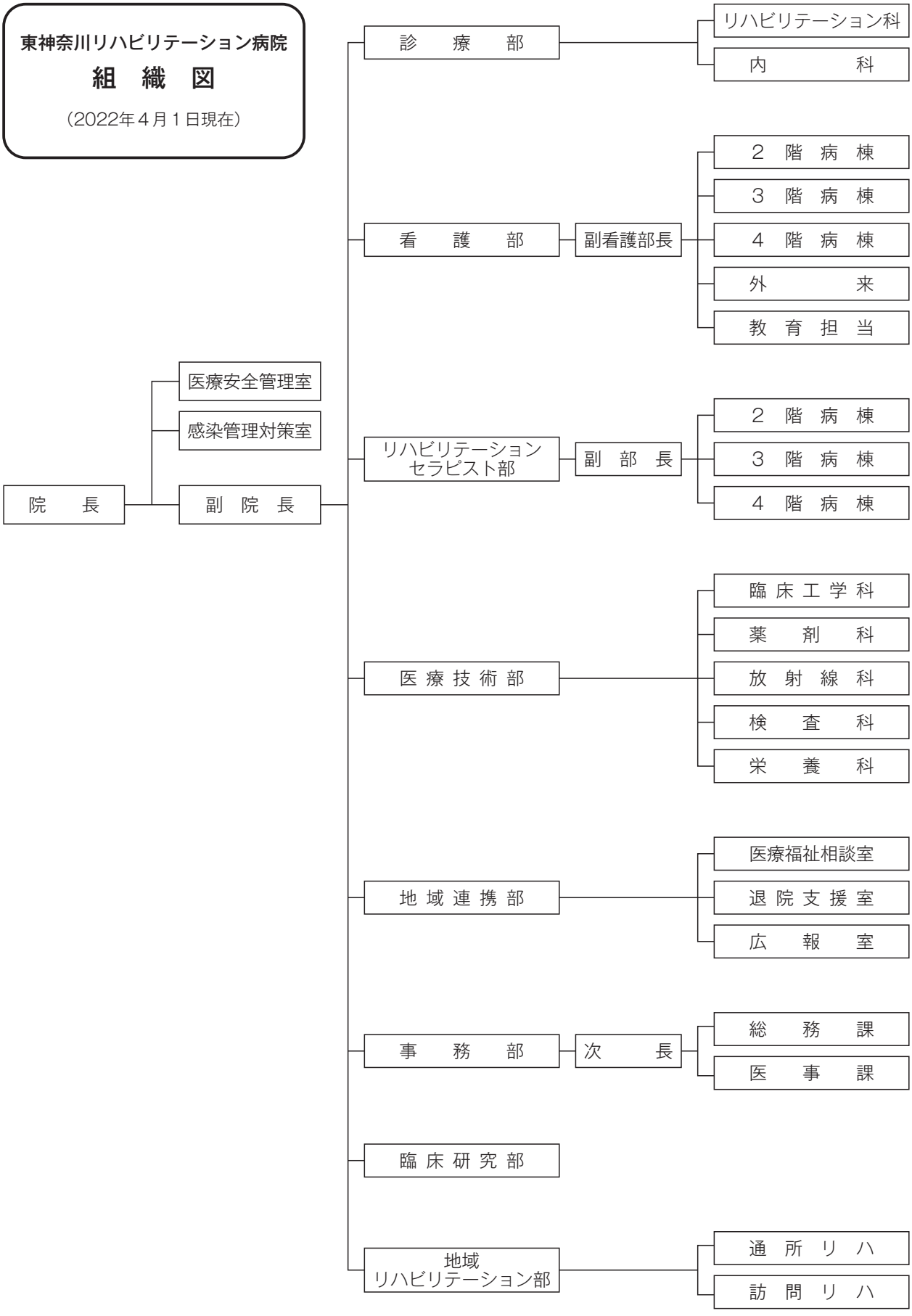
2018年(平成30年) 2 月 1 日 ● 開院(74床)
2018年(平成30年) 4 月 1 日 ● 93床へ増床
2018年(平成30年) 6 月 1 日 ● 通所リハビリテーション開始(介護保険事業)
2018年(平成30年) 7 月 1 日 ● 99床へ増床
2019年(令和 1 年) 10月18日 ● 新規個別指導・適時調査
2020年(令和 2 年) 9 月 1 日 ● 訪問リハビリテーション開始(介護保険事業)
2021年(令和 3 年) 9 月 1 日 ● 106床へ増床

組 織 図

東神奈川リハビリテーション病院

組 織 図

（2022年４月１日現在）



第Ⅱ章

活動報告

1 診 療 部

スタッフ体制

宇内 景、佐久間克也医師が退職し、４月１日より慶應義塾大学医学部リハビリテーション医学教室の鈴木俊幸、池田ゆき医師(専修医)が交代着任した。

2022年度行動計画

基本方針は例年とほぼ同様である。

各病棟に専従医を配置し体制強化加算１を継続し、高い入院診療単価を確保する。

平均在院日数を短縮させながら適時転院患者を受け入れ満床状態を維持する。

外来患者数(紹介患者及び通所、訪問リハビリテーション利用者含む)を増加させ、筋電図、CT検査、上下肢痙縮に対するボツリヌス療法、各種予防接種などの件数を増やし外来診療単価アップを計る。

自己研鑽のための学会、研究会への出席及び発表を促し、多職種と協働しながらデータベースを活用して質の高いリハビリテーションの提供を目指す。

部署内2022年度の活動総括

昨年に引き続き各病棟全てに専従医配置を行い(２階西村、３階新城、４階三浦医師)、体制強化加算１を維持した。日勤帯で各医師の定期的に不在となる時間(外勤など)は大江医師が専従医代行を継続した。

リハビリテーション科外来診療は江端、鈴木医師中心にほぼ毎日行い、退職した宇内医師も月１回(第３週木曜日終日)に外来で診療を継続した。その他退院後の通院リハビリテーション、介護保険該当者対象の通所及び訪問リハビリテーションや相談外来などの対応を行った。

また新型コロナ感染症対策としては、新型コロナウイルス感染症陽性のリハビリテーション目的の入院患者を急性期医療機関より積極的に受け入れた。一方、外来においては今年度より感染対策向上加算対象外となり、入院患者、職員を中心に迅速及びPCR検査を行った。

装具外来は毎週火曜日午前と金曜日午後に行い、また痙縮外来も適時行った。内科外来は職員中心で、大江医師が引き続き診療を行った。

新型コロナ感染症対策を施しながら委員会やカンファレンス、勉強会、講演会の実施及び他施設への参加などを再開していった。

週間予定としている毎日昼の各病棟での新入院カンファレンスは継続、月曜日夕の医局会及び抄読会開催、また毎日各階看護師長及びソーシャルワーカーとの入院審査会は時間をずらして行い継続した。

また多職種によるリハビリテーションカンファレンスも毎日各病棟で継続して行った。

その他、脳卒中教室は毎週水曜日午後に開催し、参加者は延べ302名であった(前年度318名)。

当直体制は、当院常勤医師６名で平日と祝休日をカバーし、土曜日は慶應義塾大学医学部リハビリテーション医学教室所属医師にご協力を頂いた。また休日の多い月は江端院長も参加した。

その他の診療科（非常勤）としては、毎週１回の精神科（葉梨喬広医師）と皮膚科（山本奈緒医師）はそのまま継続、口腔外科（後藤陽子歯科医師）は第３週を除く木曜日午後に診療をお願いした。

月１回の眼科は済生会神奈川県病院の伏屋一樹医師に第三月曜日午後に入院中患者の診察を昨年より継続してお願いした。

研究面では質の高い、最先端のリハビリテーションを目指しデータベースを活用できるよう引き続きデータの収集や運用に努めた。

外来における嚥下造影を含めた嚥下機能評価も鈴木医師と認定看護師を中心に更に活発に行い、また通所及び訪問リハビリテーションの診療やケアマネージャーを含めたリハビリテーション会議についても当部署として積極的に参入した。

2022年度の実績

全106床中、新型コロナウイルス感染症院内発生の影響も受けながら平均入院患者数は104.5人／日（昨年100.6）だった。

全病棟体制強化加算１を継続しながら急性期医療機関より新型コロナウイルス感染症陽性患者を積極的に受け入れ、年間66,232.5千円の増収を得た。これにより入院診療単価は46,815円／人で昨年45,002円／人と比べると前年度比1,813円／人の増収となった。

外来患者数は11.2人／日（前年度11.5人で前年度比－0.3人）であったが、院外からの発熱者外来を中止した影響もあり、外来診療単価は11,419円／人（前年度13,844円／人）で前年度比－2,425円／人減収、外来収益も46,866千円（前年度58,610千円）で前年度比－11,744千円減収となった。筋電図検査も昨年33件が今年度19件と更に減少した。一方、痙縮外来のボトックス注射件数は昨年90件が今年度114件と増加した。

地域住民の予防医療に貢献目的の外来でのインフルエンザ、肺炎球菌予防接種は年間115件（前年84件）、インフルエンザ101件（前年75件）、肺炎球菌14件（前年９件）といずれも増加した。

新型コロナウイルスPCR検査件数は359件（昨年716件）で昨年の約半数にとどまった。

一方、急性増悪による転院数は年間39件（昨年37件）であった。

2022年度科別外来患者延件数は以下のとおり。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合　計
内　科	54	34	18	33	72	23	24	26	65	21	22	20	412
リハ科	269	271	312	256	344	341	303	342	315	309	303	326	3,691
合　計	323	305	330	289	416	364	327	368	380	330	325	346	4,103

（リハ科＝リハビリテーション科、内科は職員中心、皮膚科含む）
（前年度合計内科783人、リハビリテーション科3,419人、全合計4,202人）

2-1 看 護 部

2022年度看護部年報

開院５年を迎え、看護部は新たなメンバーを加えつつ一丸となって、患者さんが質の高いリハビリテーションが受けられるよう心身ともに支援を行ってきた。

当院は脳血管疾患の患者さんの割合が高いため、入院生活だけでなく、退院後の患者さん、ご家族、地域を含めた看護の提供が求められている。看護部だけではできることは限られているため、医師やセラピスト、介護福祉士、退院支援の看護師、MSWや管理栄養士、薬剤師との連携だけでなく、地域の多職種と連携し質の高い医療を提供することが使命だと思って５年間努力してきた。

そのために医療、福祉に関する知識や介入する方法を取得することが必要と考え、病院全体や看護部、各部署において各種の研修会を開催し自己研鑽を支援してきた。

患者さんの重症化や、基礎疾患の急性憎悪などに対応するために様々な課題があるが、患者ファーストを念頭に今後も社会情勢に適応し、成長していける看護部を醸成していきたい。

2-2 2階病棟

スタッフ体制

回復期リハビリテーション入院料1（看護師13：1　介護福祉士30：1）

病棟師長代行	1名
主任看護師	3名
スタッフ看護師	13名
アルバイト看護師	1名
主任介護福祉士	1名
介護福祉士	5名

2022年度行動計画

病棟チームとして多職種とコミュニケーションをとり、円滑な病棟管理をおこなう

1．専門性を発揮し部署を超えた学習環境の醸成
2．チーム医療の質の向上
3．患者満足度の向上
4．入院収益の増加

部署概要

2階病棟は32床あり、脳血管疾患や脊髄損傷の患者さんが多いため後遺症が残る患者さんも多くいる中、他職種と連携しながら患者さんのADL向上をサポートし、在宅復帰、社会復帰を目指している。特に摂食嚥下認定看護師を中心に、口から食べることを大切に口腔ケアや食事への介入など、嚥下障害からの回復をサポートしている。また、季節のレクリエーション活動や病棟での集団リハビリなど、少しでも患者さんに和んでいただけるように取り組んでいる。

回復期リハビリテーション病院での入院は長期になることもありますが、患者さんとご家族が安心して退院を迎えることができるよう支援している。

2022年度の活動総括

多職種により勉強会の開催	6回
家屋評価への看護師同行	4件
退院後訪問への看護師同行	2件
在宅退院指導	8件
下部尿路症状の排尿ケア講習会修了	1名
訪問看護研修	1名

2022年度実績

	2022 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	2023 1月	2月	3月
重症度割合（%）	44.4	46.2	50.0	50.0	43.8	50.0	53.3	54.5	41.7	42.9	40.0	41.2
改善度（%）	100.0	75.0	0	66.7	80.0	33.3	50.0	0	50.0	50.0	50.0	100.0
在宅復帰率（%）	100.0	76.9	85.7	71.4	83.3	83.3	75.0	70.0	92.3	83.3	100.0	75.0
実績指数	75.32	42.98	53.16	35.64	44.49	38.91	35.32	59.20	69.31	55.53	32.02	59.42

2-3 3階病棟

スタッフ体制

回復期リハビリテーション入院料1（看護師13：1　介護福祉士30：1）

看　護　師：	病棟師長	1名
	主任看護師	2名
	看護師	13名
介護福祉士：	主任介護福祉士	1名
	介護福祉士	6名

2022年度行動計画

看護・介護実践にやりがいを感じ、チーム力向上を目指す

1．自己研鑽に努め、専門職としての実践力向上
2．質の高い安全な看護、介護の提供
3．安心して退院できる看護、介護の提供
4．病床管理を適切に行い収益増加に貢献する

部署概要

2022年度は、多職種による勉強会を開催することができた。部署ごとに担当者が勉強会を開催し、専門性についてお互いを知る機会となった。また、セラピストと介護福祉士が協働し、患者さんの余暇時間の充実を目的にレクレーションを行うことができた。

2022年度の活動総括

ＱＣ活動	1例
病棟内勉強会開催	6件（医療安全・褥瘡・認知症ケア）
多職種による勉強会開催	5件
家屋内動作訓練への看護師同行	2件
看護師による退院後訪問	1件
看護師による退院指導（医療処置）	7件
介護福祉士による在宅退院に向けたオムツのあて方指導	13件
セラピストからのトランスデモンストレーション開催	7件
経管栄養離脱率	52.9%
脳卒中教室参加人数	33名
医療安全カンファレンス	91件

2022年度実績

	2022 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	2023 1月	2月	3月
重症度割合（%）	35.7	66.7	50.0	45.5	60.0	46.7	46.7	42.9	50.0	45.5	44.4	46.7
改善度（%）	60.0	100	66.7	100	75.0	87.5	83.3	75.0	100	60.0	66.7	60.0
在宅復帰率（%）	86.7	75.0	91.7	88.9	77.8	80.0	92.3	78.6	100	80.0	75.0	83.3
実績指数	51.03	51.07	59.26	40.79	75.40	60.85	50.33	54.97	95.24	58.88	58.03	48.90

2-4 4階病棟

スタッフ体制

回復期リハビリテーション入院料1（看護師13：1　　介護福祉士30：1）

看護師：看護師長：1名
　　主任看護師：1名
　　スタッフ看護師：15名
介護福祉士主任：1名
　　スタッフ介護福祉士：6名
　　看護助手：1名

2022年度行動計画

各々が専門職業人として適切な看護・介護を提供できる

1．看護・介護を責任もって提供する
2．安全で安心な質の高い看護・介護の提供
3．居心地の良い療養環境・職場環境の提供
4．適切な病床管理を行い病院運営に貢献する

部署概要

診療報酬の改定により、重症度割合が増し、看護ケア度も高くなったことと同時に、コロナ禍での面会制限もあり、病棟での生活状況や回復状況がご家族に伝わりにくかった。その中でも、ご本人やご家族の意向に添うよう、介護指導を重ね、早期に自宅退院できるよう関わってきた。また、院内のQC活動として、夜間の頻回なおむつ交換による中途覚醒やスタッフの業務整理につながる実証を行い業務改善へと繋がった。

2022年度の活動総括

QC発表	1例 優秀賞
BLS参加人数	5名参加／25名中
アクシデント3ａ以上のインシデント	0件
在宅退院のための指導実施	14件（介護福祉士によるおむつ指導も含む）
脳卒中教室参加	26件
急性増悪による救急搬送	14件
PEG造設	5件

2022年度実績

	2022 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	2023 1月	2月	3月
重症度割合（%）	47.1	41.7	41.7	25.0	54.5	44.4	50.0	44.4	36.4	28.6	53.3	46.2
改善度（%）	66.7	33.3	40.0	0	50.0	0	100	20.0	80.0	33.3	40.0	50.0
在宅復帰率（%）	75.0	83.3	90.0	77.8	78.8	91.7	81.8	75.0	81.8	87.5	81.8	69.2
実績指数	63.17	54.74	47.21	38.59	40.31	63.63	44.85	56.03	40.22	37.53	53.07	43.18

2-5 外　　来

スタッフ体制

医　師：リハビリ専門医師　3名(外来診察医師)、非常勤医師　2名、内科医師　1名、
看護師：看護師長　1名、摂食嚥下障害認定看護師　1名(2019年10月から開始：毎週水曜日のみ)

2022年度行動計画

1．専門性を活かした外来診療を拡充させ、定着させる
2．他部署および地域に貢献できる外来診療が行える

部署概要

外来では、退院した患者さんや家族・訪問看護師等に退院後の生活状況を聞き、必要に応じて相談や指導を行い、診療や看護・リハビリテーションを継続的に行っている。

特殊外来では摂食嚥下障害認定看護師や管理栄養士(必要時に言語聴覚士)と協働して、地域医療連携施設からの紹介や電話での相談・診察を行っている。

また、脳卒中の後遺症からくる「手足のツッパリ(痙縮)の治療を行う痙縮外来(ボツリヌス療法)」や装具外来(新規患者受入れ)も行っている。

部門内2022年度の活動総括

社会復帰を目指した患者さんの退院後リハビリテーションを主に外来リハビリテーションまたは通所リハビリテーションを継続的に行ってきた。日常生活上や復職で困っていることなどを聞き、本人にあった生活スタイルの工夫を一緒に考えるなどの支援を行っている。

特殊外来では、地域医療機関や施設からご紹介を頂き、摂食嚥下外来に受診される患者さんも徐々に増加傾向にある。介入終了しても再診希望があれば受診するなどフォローアップもしている。

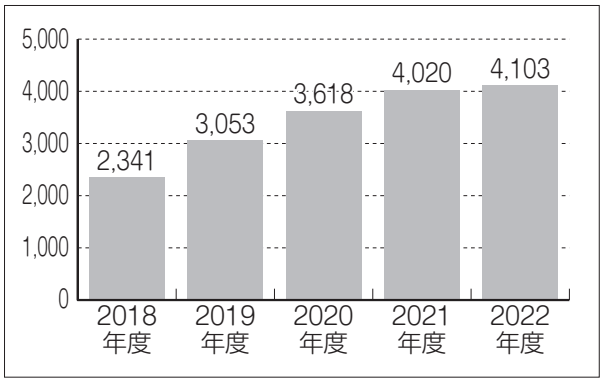
また、地域関連の医療機関からの依頼で栄養相談や筋電図検査で、必要時には外来でフォローアップおよびリハビリテーションを実施している。

2022年度(下記表「2022年度実績」参照)の外来患者数は少しずつではあるが、増加傾向にある。これからもチームで協働し、外来診療および特殊外来の拡充できるようにコツコツと活動していきたいと思っている。

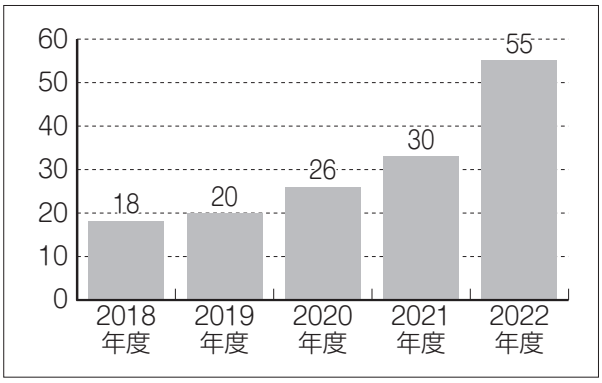
2022年度の実績

年　　度	外来件数	摂食嚥下外来	嚥下造影検査(VF)	ボトックス治療件数	ブロックトリガーポイント注射	相談外来	筋電図検査
2018年度	2,341名	18名		24件	1名		
2019年度	3,053名	20名		53件	5名		1件
2020年度	3,618名	26名		57名	17名	4名	4件
2021年度	4,202名	33名	28名	86名	14名	1名	4件
2022年度	4,103名	55名	23名	113名	14名	2名	3件

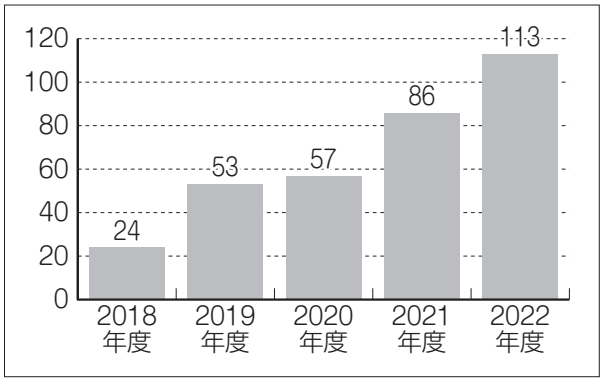
【外来人数(延数)】



【摂食嚥下外来】



【ボトックス治療件数】



3 リハビリテーションセラピスト部

スタッフ体制

理学療法士 34名、作業療法士 36名、言語聴覚士 10名、事務職 1名

2022年度の行動計画

1．自己研鑽に取り組める風土をつくる
2．安全にリハビリを提供する
3．患者・地域・職員の満足度の向上
4．病院の収益に貢献する

2022年度の活動総括

Covid-19の対策をしつつ粛々と目の前の患者さんに対応した1年であった。

再び、セラピスト部が引っ越しとなり本館1階STフロアーに移動。物理的にST室・ADL室・機能訓練室と近くなったので、お昼休憩の時間にはお弁当を食べに来る職員、夕刻には電子カルテを使いに来る職員などでにぎわっている。

病棟体制は少しずつまとまってきており、勤務調整はもとより、患者さんの情報共有や各種勉強会も病棟単位で活発に行われるようになり、職種間の横のつながりが良くなってきたと感じる。

次年度は、covid-19が5類感染症へと移行したが、引き続き感染対策をしつつ目の前にいる患者さんへ精一杯のリハビリテーションを提供していきたい。加えて、当院入院患者さんが退院した後もfollowできるよう、地域に携わる職種と連携をとっていきたいと考えている。

◎理学療法部門

2022年度は「個人と組織の学習と成長」をスローガンに活動を行った。

学習に関して学会や研修会に90%以上のスタッフが参加した。

研究活動の推進として外部発表4件、院外講師9件実施。VICON(3次元動作分析装置)による歩行・装具評価も年間121例実施し、測定データを分析した発表を今年度は行う事が出来た。地域貢献に関しては、地域活動・リハビリ専門職派遣事業への協力として、健康教室の講師など6件派遣し、近隣地域との交流も行った。

また生涯学習プログラムに沿った当院での臨床技能チェックシートの作成、新人教育カリキュラムの見直し等、より良い学習環境の醸成を図っている。

引き続き、良質なリハビリテーションを提供出来るように努めていく所存である。

◎作業療法部門

コロナ感染対策が緩和され、各種学会や研修が現地開催されるようになった。2022年度の研究

活動は、論文１件、各種学会発表10件、行うことができた。また、臨床実習指導者講習を修了したセラピストも９名となった。

2023年度は、引き続き研究活動の実施と研修への参加推進を図り、教育体制の強化・臨床の質向上を目指していきたいと考えている。

◎言語聴覚部門

引き続き、症例検討やミニ勉強会を積極的に実施。経験年数の少ないセラピストが多くを占めていたが、徐々に年次を重ね臨床能力の向上が認められる。2022年度は実習生の受け入れを再開。実習生との関りを通し、教育能力の向上や用語のより深い理解、年次を重ねるとついつい見逃してしまう事象の再発見やその検討など学ぶ機会を多く持つことが出来た。

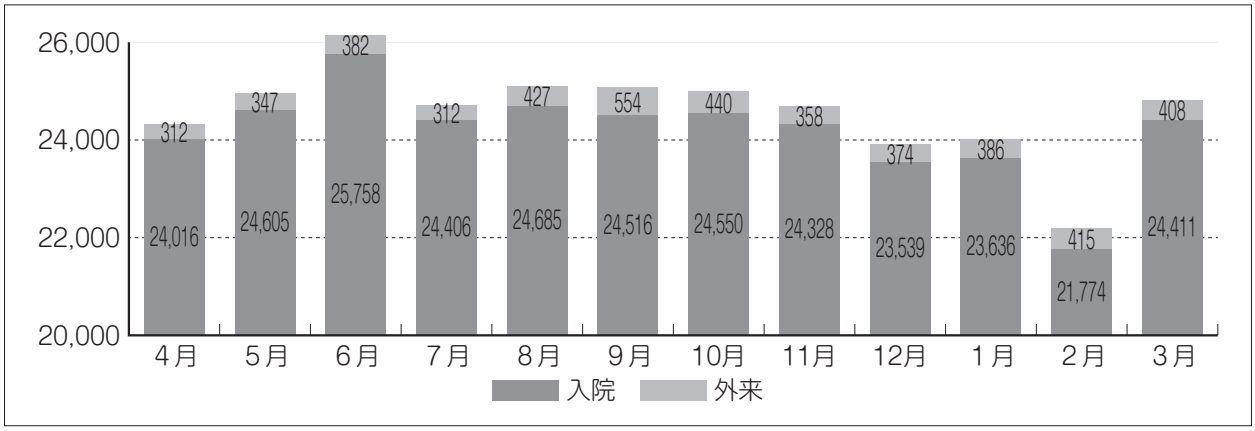
また、実習生が就職につながるなど良い循環が構築できてきた。今後は実習受け入れ先を増やし、この良い循環の継続を目指していきたいと考えている。

2022年度の活動実績

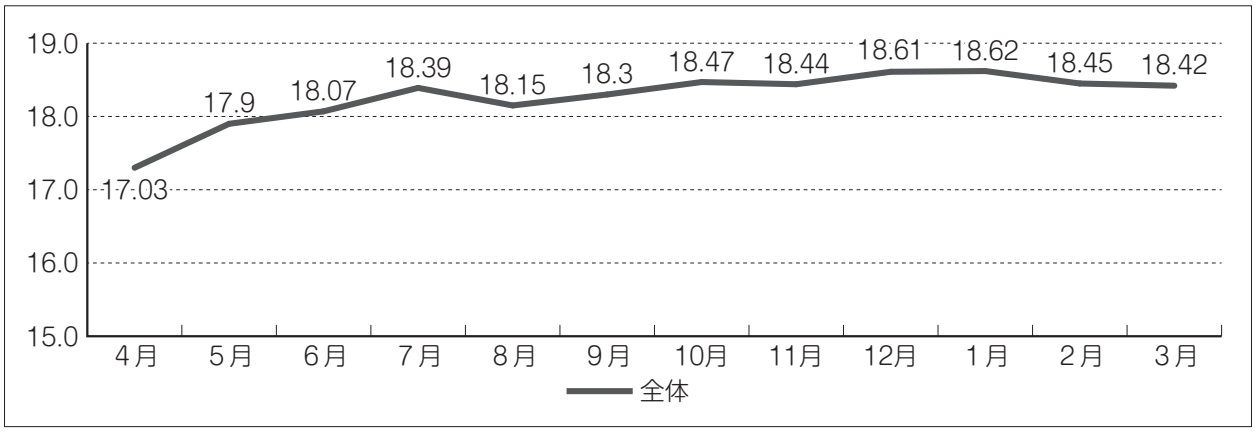
１．研究活動・教育活動

- 部門内症例検討会開催
- 各種学会・研究会での発表・論文投稿（教育・研究実績の項参照）
- 臨床実習引き受け（理学療法３校・作業療法２校・言語聴覚療法１校より合計７名）

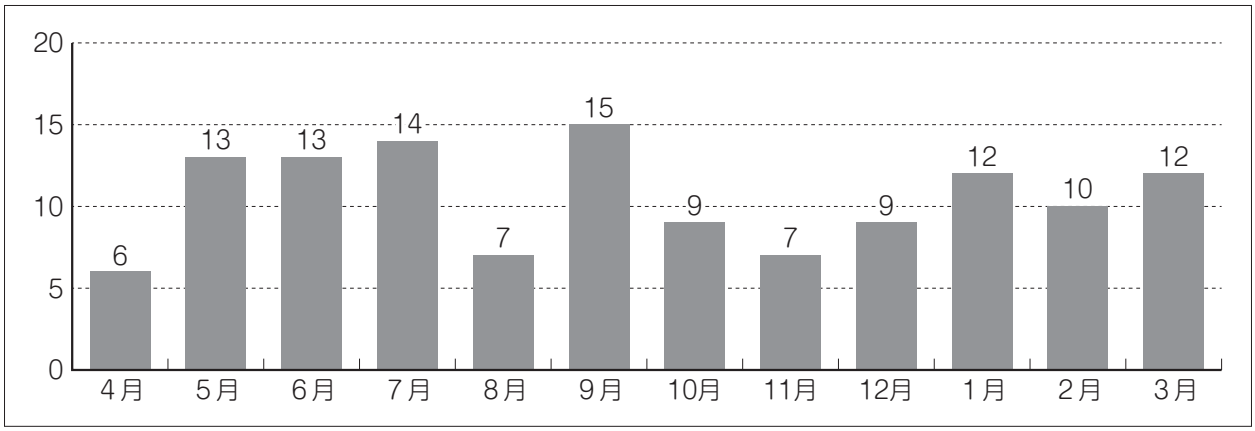
２．患者訓練実施単位数（入院／外来）



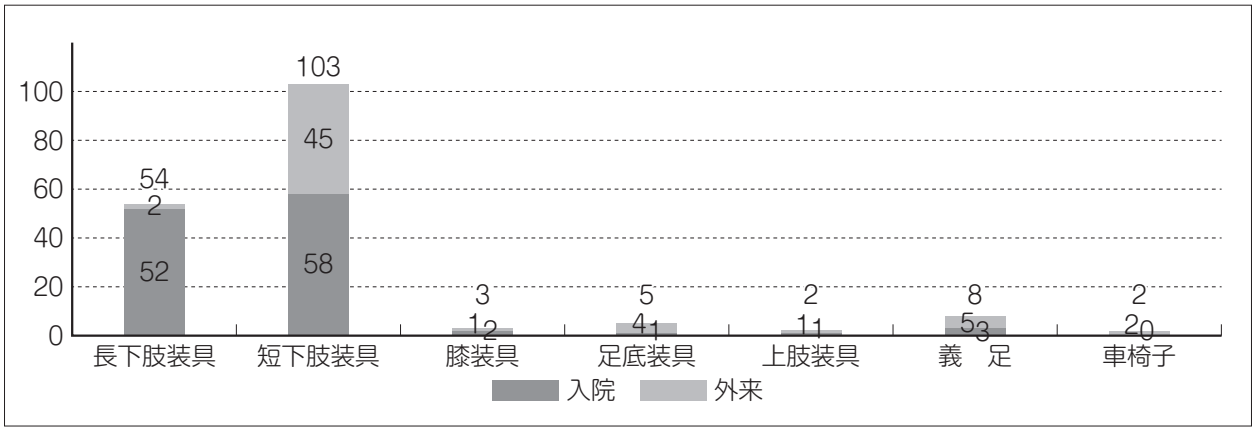
3．セラピスト稼働単位数



4．居宅生活機能評価実施件数



5．義肢装具作製件数



6．自助具・スプリント作製件数

自　助　具		スプリント	
スリング	2件	短対立装具	6件
洗体タオル	6件	手指伸展装具	3件
片手髪結い	1件	手関節伸展装具	1件
代付き爪切り	1件	その他	3件
その他	5件		
合　計	15件	合　計	13件

7．先端機器使用実績（患者数）

機　種	KiNvis	Tyromotion		電気刺激	
		AMADEO	18	IVES	27
		DIEGO	51	エスパージ	104
		PABLO	3		
		TYMO	16		
		MYRO	97		
合　計	10人		185人		131人

8．地域連携実績

①近隣地域ケアプラザ開催の地域住民を対象とした健康教室へ講師派遣を行った。

- 六角橋地域ケアプラザ（当院との共催事業として実施）
  サンサン教室（5月27日開催）
- 菅田地域ケアプラザ
  デイサースへ機能訓練担当として週2回、セラピストを派遣。
  近隣住民への健康講座（11月1日、11月29日開催）

②リハビリテーション専門職派遣事業への協力

- 元気づくりステーション片倉台団地（7月15日開催）
- 元気づくりステーション北原（10月4日開催）
- 地域リハ会議（片倉三枚ケアプラザ）

4-1 臨床工学科

スタッフ体制

臨床工学技士　1名

2022年度行動計画

医療機器および訓練機器の管理体制の充実と安心安全な医療の提供。

2022年度の活動総括

COVID-19に対する感染対策に苦慮しましたがトラブル報告無く最適な医療が患者さんに提供できた。

2022年度の実績

他職種間で連携が図れ、最善で最良な方法で医療を患者さんに提供できた。

4-2 薬 剤 科

スタッフ体制

常勤 3名(欠員 1名)

2022年度の活動総括

コロナウイルス感染症対策に翻弄した2021年度と比較し、2022年度は調剤、注射剤調剤等落ち着いた1年であった。しかし、某製薬会社が起こした睡眠導入剤混入事件をかわきりに、製薬各社は製造工程の再確認を行い一部不正が発覚、工場が停止する事態が引き続き散見した。またロシアによるウクライナ侵攻は医薬品製造にも大きな影響を与え、ここ2年間、日本中で必要な医薬品を確保できない状態が続いている。2022年度は、医薬品の必要量確保がより大きな課題であった。また病院薬剤師人員確保も日本中の問題であり、当院も業務拡大のための人員増が認められたが、採用に至ることはできなかった。次回の診療報酬改定では、回復期病棟での薬剤師病棟活動業務が可能になることが想定されており、各病棟担当薬剤師が設置できるように、当院の良さをアピールし人材確保に努めたいと考えている。

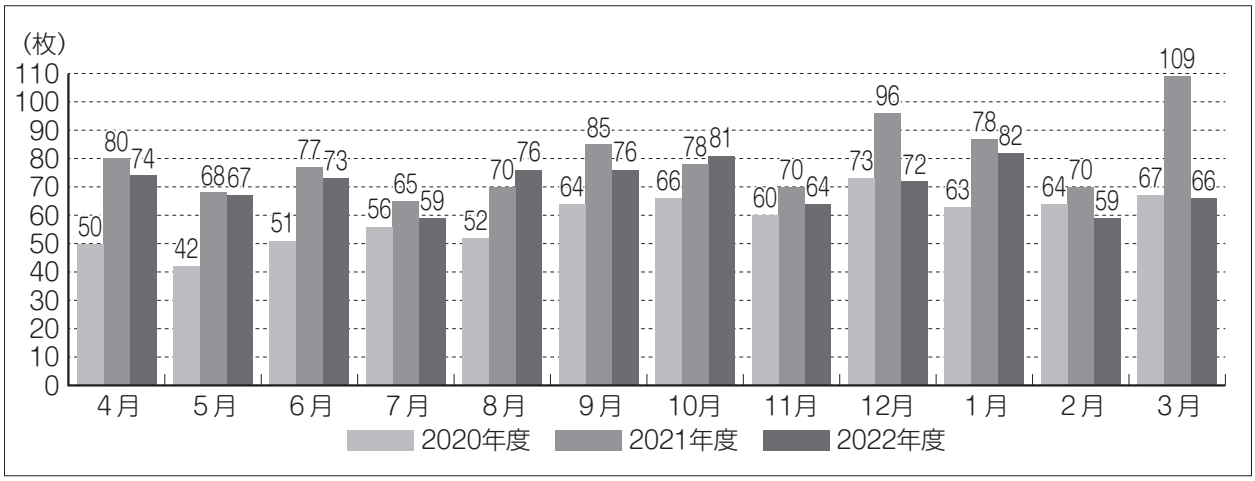
最後に神奈川県済生会6病院で、医薬品を共同購入する話が進められている。スケールメリットを生かした価格交渉と済生会として医薬品を確保することが一番の目的である。当院への影響は少ないかもしれないが、足並みを揃えて活動していく所存である。

2022年度の実績

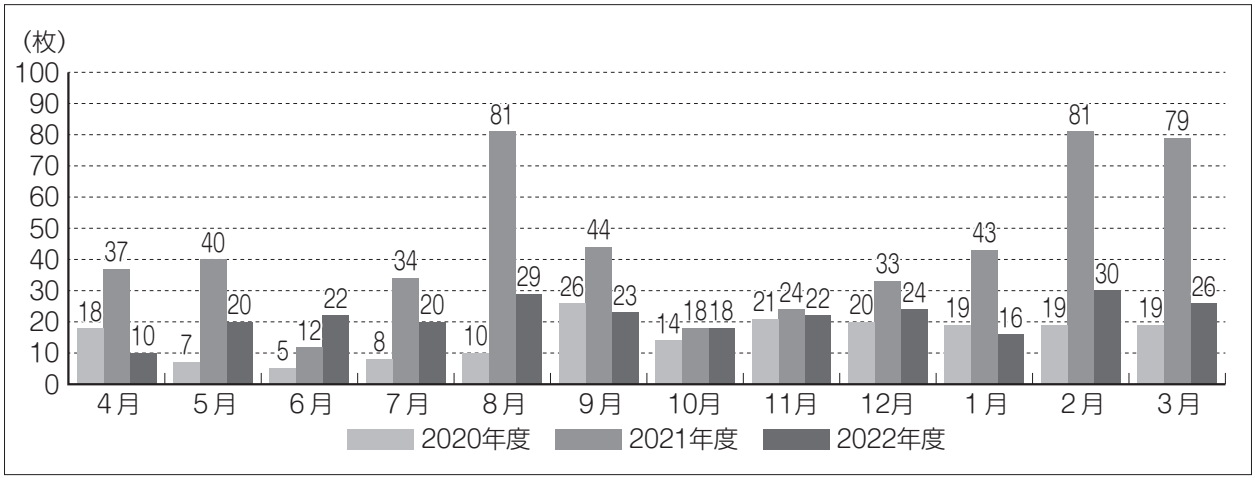
○処方箋調剤

院外処方箋発行枚数(月平均)	:	70.8枚／月(前年度比 89.7%)
外来院内処方箋(月平均)	:	21.7枚／月(前年度比 49.4%)
件数(処方箋1枚あたり)	:	1.9件／枚
入院定期処方箋(月平均)	:	435.8枚／月(前年度比 93.8%)
件数(処方箋1枚あたり)	:	4.8件／枚

【院外処方箋発行枚数】



【院内処方箋発行枚数】

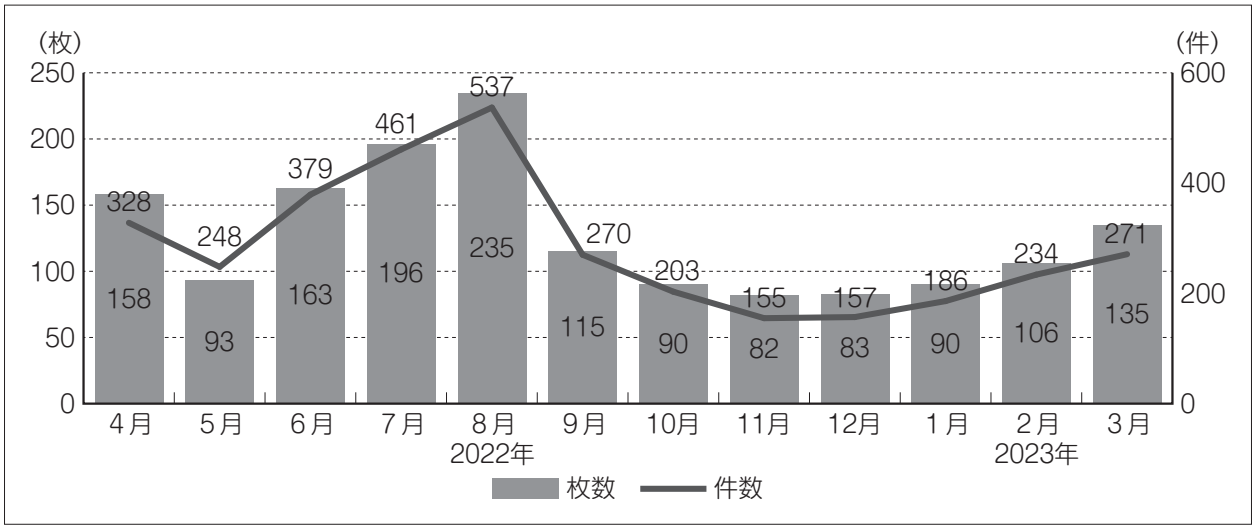


○注射処方箋調剤

入院注射処方箋(月平均)　：　128.8枚／月

件数(処方箋１枚あたり)　：　2.2件／枚

【2022年度 注射処方箋枚数・件数】



○薬剤管理指導業務として

薬剤管理指導件数(月平均)　：　91.6件／月

4-3 放射線科

スタッフ体制

済生会神奈川県病院放射線科より診療放射線技師　1名

2022年度行動計画

「質の高い放射線検査を安全かつ効率的に提供できるチーム構築する」

- 電離放射線障害防止法規則改正の周知
- 外来CT検査件数の増加

2022年度の活動総括

昨年同様、派遣元である済生会神奈川県病院では退職者や県内での新型コロナ感染の拡大に伴いCOVID対応検査が増えていき、当院への技師派遣が厳しい1年となった。これに伴い、当院専任の人材確保のために、採用活動も積極的に行った。

2022年度の実績

【2022年度 検査実績】

検査種別	入　院	外　来	合　計
一　般　撮　影	871	402	1,273
ポ　ー　タ　ブ　ル	226	0	226
骨　　密　　度	4	0	4
透　視　撮　影	156 （嚥下造影 154）	23 （嚥下造影 23）	179
C　T　検　査	574 （造影検査 1）	345	919
画像ファイリング	745	120	865

4-4 臨床検査科

スタッフ体制

臨床検査技師　1名

2022年度の活動総括

2022年度の4月より1名体制になった。

1人で業務を行うにあたりマニュアルを見直し、改定した。

2022年度は、コロナの影響で消耗品の納入遅延や、採血管の突然の変更等あったが、各部署協力のもとで乗り切ることができた。

また、コロナPCRの検査依頼が、紙運用からオーダリングとなりダブルチェック不要となった事で業務が軽減し、入力ミスの心配も無くなった。

2022年度の実績

検査件数の統計表を示す。

【検査科統計 2022年度】

総件数合計：9,562件　＊外来総件数：800件　入院総件数：8,762件

			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
			件数	件数	件数	件数	件数	件数	件数	件数	件数	件数	件数	件数	件数
検体検査	生化学	外来	12	13	15	8	11	10	11	8	14	11	9	3	125
		入院	179	199	219	200	203	197	197	212	212	192	189	219	2,418
	血液	外来	12	13	15	8	11	10	11	8	14	11	10	3	126
		入院	173	196	209	196	197	193	195	212	200	187	183	212	2,353
	凝固	外来	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
		入院	47	50	34	26	34	34	35	33	25	24	28	33	403
	Dダイマー	外来	0	0	1	0	0	0	0	1	0	1	0	0	3
		入院	49	41	40	39	44	56	50	45	44	43	44	51	546
	尿	外来	3	2	3	1	1	1	1	0	1	1	1	1	16
		入院	102	96	108	100	94	97	107	118	103	82	97	101	1,205
	血液ガス	外来	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		入院	1	4	6	1	2	0	2	1	5	1	0	0	23
	コロナ抗原	外来	1	5	5	16	27	3	1	1	8	7	1	6	81
		入院	26	10	17	13	51	15	15	36	51	22	18	15	289
	ディフィシル	外来	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		入院	5	7	10	2	2	1	4	1	3	8	1	1	45
	その他迅速	外来	0	2	4	2	2	0	0	0	2	5	1	7	25
		入院	1	0	0	0	0	0	0	0	3	8	9	10	31
細菌・病理	一般細菌	外来	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	1	34
		入院	38	25	27	24	38	19	17	26	27	15	12	32	300
	抗酸菌	外来	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		入院	3	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	4
	細胞診・組織診	外来	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	PCR	外来	48	13	6	25	117	4	1	65	71	5	1	3	359
		入院	54	14	17	12	120	17	18	60	37	18	18	13	398
生理検査	心電図	外来	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
		入院	42	35	39	29	36	50	43	39	36	38	37	52	476
	肺機能	外来	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	腹部エコー	外来	0	0	1	0	0	2	0	0	1	0	0	0	4
		入院	8	9	9	11	6	4	3	7	4	1	4	3	69
	心エコー	外来	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		入院	7	2	7	7	5	2	4	4	5	1	1	5	50
	下肢エコー	外来	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		入院	7	5	9	7	2	5	6	5	6	4	5	6	67
	頸動脈エコー	外来	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		入院	0	0	0	1	0	0	0	1	0	1	0	0	3
	表在エコー	外来	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		入院	1	1	0	1	0	0	2	0	0	0	0	0	5
	ドップラー	外来	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		入院	7	5	10	8	2	5	6	6	7	5	5	6	72
	筋電図	外来	0	0	1	1	0	1	0	2	0	1	0	0	6
		入院	2	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	4
	ボトックス	外来	1	2	2	2	0	2	2	0	3	2	0	2	18
		入院	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
		外来合計	81	53	58	66	172	36	30	88	117	47	26	26	総件数
		入院合計	752	700	761	677	836	695	704	807	770	650	651	759	9,562
		総合計	833	753	819	743	1,008	731	734	895	887	697	677	785	

4-5 栄 養 科

スタッフ体制

管理栄養士：３名(病棟専任)
給　　食：部分委託(株式会社グリーンヘルスケアサービス)

2022年度行動計画

- 治療効果をあげ、生活の楽しみとなる満足感のある給食の確立する
- リハビリテーション栄養ケアプロセスの構築

2022年度の活動総括

入院指導は平均37.0件／月と例年同様維持できている。外来栄養指導はコロナ感染症により件数を伸ばしにくかったが、退院から外来栄養指導への継続フォローや摂食嚥下外来の介入により平均14.2件／月と前年に比して増加した。訪問栄養指導はコロナ禍ということもあり年３件と少ないが、継続して行っている。特別食加算においては今年度より「高血圧性心疾患等」での算定を開始し平均63%／月と高い割合で加算ができている。

教育面では、e-ラーニング100%受講に加えて、それ以外に自己研鑽で16件／年、セミナーや学会等に参加し科内で情報共有した。専門資格では、武田が在宅栄養専門管理栄養士を取得、松本ががん病態栄養専門管理栄養士を更新、矢澤が糖尿病療養指導士を取得。施設側管理栄養士から委託スタッフへ年３回の研修会を行い、安全な給食提供が出来るよう教育している。

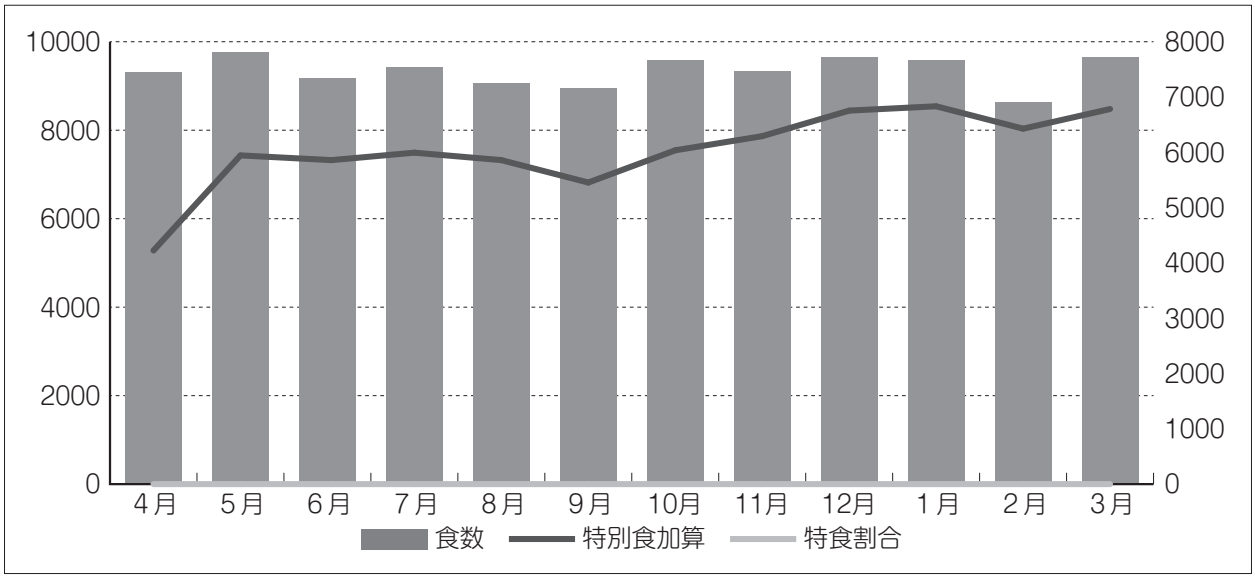
また、チーム医療への参加を積極的に行い、多職種カンファレンスへ毎日参加し、NST回診、褥瘡回診、脳卒中教室の他、病棟で行われている摂食嚥下カンファレンスにも毎週参加し他職種とリハビリテーション栄養をすすめている。

給食管理では、患者満足度の向上を目指し、新献立の取り入れや、新しい食器やコップの導入をし、日々安心安全な給食提供が出来るよう努めている。

2022年度の実績

• 食数：平均9,342食／月、特別食加算：平均6,050食／月、特別食加算割合：平均65%／月

【食数・特別食加算割合】



• 栄養指導件数：入院指導441件、外来指導176件
栄養サマリー発行数：120件、栄養情報提供加算：73件

5-1 医療福祉相談室

部署紹介

2022年度はソーシャルワーカー４名での勤務となった。７月からは、退院支援室の退院支援看護師１名が増員となり、退院支援看護師２名と共同で全入院患者に対し入退院支援を行った。また、退院支援室・外来看護師・リハビリテーションセラピスト部・医事課とともに地域連携会議を月１回開催した。

2022年度行動計画

１．業務内容のマニュアル改訂を進め効率化を図る
２．電子化していない院内文書の新規作成をし、業務の簡素化を図る
３．療養・就労両立支援の勉強会開催
４．療養・就労両立支援指導料算定の開始準備
５．ZOOMを利用し連携機関と面談を実施

2022年度活動総括

昨年度、２名の両立支援コーディネーターの研修を修了することができた。今年度は、その資格を生かすため、療養・就労両立支援指導料算定にむけマニュアルの作成、電子カルテへ書式を整備、医療福祉相談室内での勉強会開催、医局との合同勉強会を行い、患者さんへの復職支援に活用することができた。９月から算定を開始し、年度末までに９件の療養・就労両立支援指導料、７件の相談支援加算を算定することが出来た。当院は、壮年期の患者さんが多く復職は患者さんにとって大きな課題である。来年度も引き続き指導料を算定するだけではなく、職場や産業医とも連携を行い、復職への支援を行っていきたい。

相談業務としては、昨年度導入した「ケアブック」により入院相談が増加している。月に約100件ある入院相談のうち、半分がケアブックを通じた相談になってきている。今まであまり連携を行っていなかった病院からも常時相談が受けられるメリットがある反面、当院をあまり希望していなくても申し込みができる為、入院審査会の件数が増え事務作業も増加している。

今年度もコロナの流行により、様々な制限下での相談支援業務となった。このような状況だからこそ、オンラインを利用した業務の工夫を行った。厚労省もオンラインでの業務を診療報酬上評価し推進している。病院１階でもWiFiが利用できるよう工事を行ってもらったのを機に、相談室としてもタブレットの活用を積極的に行い、入退院支援加算に必須条件である連携機関との面談や、退院前カンファレンス、施設の入所前面談、遠方に住む家族へのＩＣ、産業医や職場との面談を行った。特に院内感染で面会禁止になっても、オンラインのため在宅準備に向けたカンファレンスや打合せを延期することなく行うことが出来た。

2022年度の実績

〔参加会議〕

- 横浜市立市民病院　パートナー病院連携会議
- 老健＆病院の情報交換会
- 神奈川県医療協ソーシャルワーカー会
- 神奈川県医療協新任研修委員会
- 済生会神奈川県支部ＭＳＷ部会

〔無料低額診療事業委員会〕

- 全職員向け無料低額診療事業研修

〔院内QC発表会〕

- 「病床稼働100%を目指す～回復期戦国時代を生き延びるには～」

〔地域連携〕

- なでしこ研修「地域で考える身寄りなし問題」
- 六角橋地域ケアプラザサロン交流会
- 鶴見区中途障害者支援者連絡会
- 小規模多機能ぼやあ樹事例検討会

【医療福祉相談室 対応数】

2022年度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
新規入院患者	39	34	32	28	32	45	40	34	31	32	34	45	426
退院数	42	36	41	30	44	38	46	36	34	38	36	45	466

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
家屋訪問	5	8	7	9	5	4	5	1	5	4	6	9	68
入院相談	63	74	71	70	80	90	96	60	83	95	95	94	971
電話対応	21	24	28	26	28	33	24	26	20	27	33	26	316

5-2 退院支援室

スタッフ体制

看護師 2名

2022年度行動計画

ビジョン：患者・家族が退院後もその人らしく生活できるよう、チームで連携し退院支援・調整を進めていく

- 自己の学びを深め、支援の質向上に努める
- 病棟看護師の退院支援に関する知識を高める
- 家族・患者・地域から信頼される退院支援室を目指す
- 収益の向上に貢献する

2022年度の活動総括

医療福祉相談室と業務分担し、医療依存度の高い患者さん、高齢患者さんに主にかかわり、引き続き退院支援を行った。7月よりスタッフ1名が増員され、院内の退院指導の充実にも力を入れて活動した。退院支援リンクナース会を通して退院指導パンフレットを改定したり、退院後アンケートを開始し生活に戻った後の困り事を把握したりと入院中のケアの改善に努めている。

COVID感染継続の影響もあり、退院後訪問や家屋調査・連携事業所への訪問活動には制限がかかったが、病棟看護師と行った退院後訪問や連携事業所訪問の経験を報告書にまとめて共有するなど、貴重な機会を多くのスタッフに還元できるようにした。

2022年度の実績

介入実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
新規介入数	5	8	8	11	14	13	11	10	7	11	17	13	128
継続介入数(延べ)	125	81	100	90	144	175	181	165	176	161	191	191	1,780
退院数	9	7	7	3	5	13	11	7	6	9	9	10	96

家屋調査・事業所訪問数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
家屋調査	1	1	1	3	1	7	1	5	3	3	2	2	30
退院後訪問	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	2
連携事業所訪問	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2

〔院内活動〕

11月　退院後アンケートの作成・開始
２月　経管栄養、インスリン注射、吸引指導パンフレットの改定
３月　退院支援カンファレンス方法の検討、規定の作成

〔その他〕

- 神奈川区サービス事業所連絡会 看護部会　３回／年参加
- 済生会地域包括連携士養成研修会　１名受講
- 横浜実践看護専門学校 実習時「退院支援」講義

5-3 広 報 室

スタッフ体制

室員：１名

2022年度行動計画

- 病院年報2021の発行
- 病院機関紙の発刊
- 病院ホームページの更新
- 看護部案内のリニューアル
- 外来パンフレットのリニューアル
- 病院宣伝グッズの作成
- 病院紹介動画の作成
- 機関紙「済生」へ投稿
- 広報実務研究会へ参加

2022年度の実績

- 病院年報2021の発行（９月）
- 病院機関紙の発刊（５月、10月、１月）
- 病院ホームページの更新（随時）
- 看護部案内のリニューアル（１月）
- 外来パンフレットのリニューアル（７月）
- 病院宣伝グッズの作成（６月）
- 病院紹介動画の作成（３月）
- 機関紙「済生」へ投稿（11月、１月、２月、３月）
- 広報実務研究会へ参加（10月、２月）

6-1 総　務　課

スタッフ体制

総務課　７名(常勤４名、常勤嘱託３名)

2022年度の活動総括

新年度に際し給与規程と給与規則を規則へ統一し、煩雑であった内容を明瞭とした。

また、委託契約の見直しを行い、新たな委託会社を迎え入れるための準備や立ち上げ支援に尽力した。

その他、職員への福利厚生サービスの拡充を目的に「東急不動産部屋探しサービス」を新たに導入。人事関連ではますます厳しくなる採用環境に対応し、人材紹介会社からの紹介を再導入、さらにエアワーク等の採用ホームページの開設等、人員確保に向けた施策を積極的に導入した。

課内においては、既に導入済であったが、運用が不十分であった人事大臣というソフトの活用を再検討し、データの一元管理の導入を試作的に開始している。

2022年度の実績

2022年４月１日～５日	新入職職員入職式及びオリエンテーション
2022年４月１日	給与規程を給与規則と統合
	「育児・産後パパ育休に関する相談窓口」設置
2022年８月８日	「リロクラブ」による職員向けマネーセミナー開催
2022年９月１日	福利厚生制度追加 東急不動産部屋探しサービス導入
2022年10月１日	「かながわ治療と仕事の両立支援推進企業」認定
2022年11月22日	「断続的な宿直又は日直勤務許可」取得
2022年12月21日～23日	法定監査(会計監査法人)対応
2022年１月10日	院長年頭所感
2023年２月９日	36協定届出
2023年３月15日	永年勤続表彰

6-2 医 事 課

スタッフ体制

医事課 12名(常勤８名、委託：４名)

2022年度行動計画

医事課の2022年度行動計画を４つの視点で策定。

【学習と成長の視点】 医事・介護に関する幅広い知識の習得
【業務プロセスの視点】 病院機能評価受審と働き方改革推進
【顧 客 の 視 点】 地域への発信
【財 務 の 視 点】 病院経営安定化への貢献

2022年度の活動総括

2022年度は診療報酬改定があり、重症度割合変更(30%→40%)に伴う回復期リハビリテーション病棟入院料１の届出を行った。また、延期していた病院機能評価の受審日が2023年の７月に決定したことから、プロジェクトを６月に再開した。学習と成長の視点において、11月には専門学校の医療関係の実習生の受け入れ、また、各担当者が担当業や制度に関する勉強会を毎月行い、ＱＣ発表会で改善活動を発表した。地域への発信および連携強化を目的に、１月にマリノススポーツクラブの院内講演、２月に地域ケアプラザで摂食嚥下研修会を企画した。新型コロナ関連では、面会ができない家族向けに、脳卒中教室のDVD動画視聴を８月に開始した。また、市民向けのワクチン接種も１月に開始し、地域への貢献を拡充した。

2022年度の実績

2022年６月　　：病院機能評価プロジェクト(再開)
2022年９月　　：回復期リハビリテーション病棟入院料１届出(経過措置)
2022年１～２月：マリノススポーツクラブ院内講演・摂食嚥下研修会
2023年２月　　：ＱＣ発表会

7 地域リハビリテーション

スタッフ体制

理学療法士 2名、作業療法士 2名、介護福祉士 2名、看護師 1名、事務員 1名、運転手 2名

2022年度行動計画

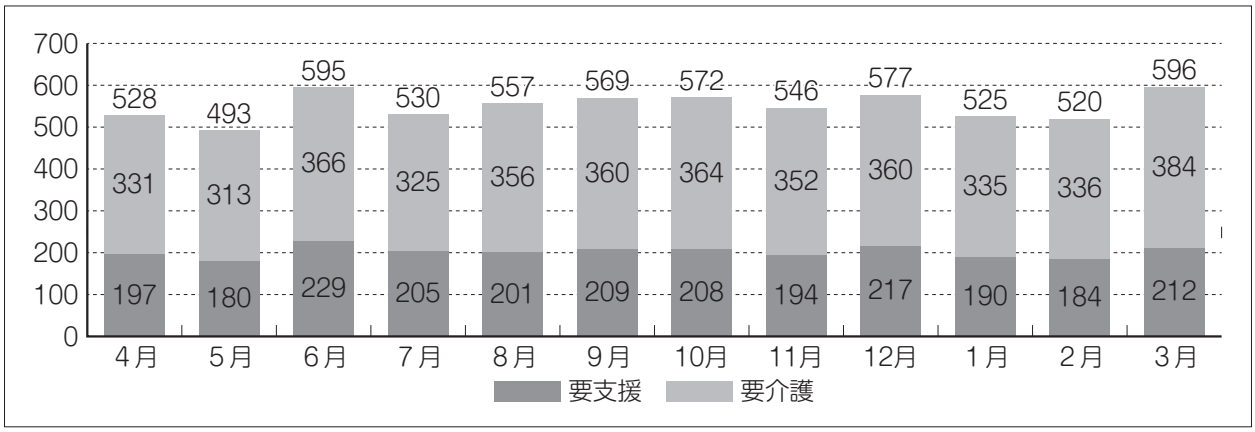
ビジョン：神奈川区の地域リハビリテーションの中核となる
学習と成長の視点：スタッフが個々にスキルアップを行いながら業務にあたることができる
○介護保険分野の学会や研修会の参加、地域リハビリテーションの実習受入
業務プロセスの視点：地域リハの業務を多職種で連携し円滑に遂行することができる
顧客の視点：利用者・ケアマネジャーから選ばれる地域リハビリテーションを目指す
財務の視点：通所、訪問利用者人数の増加、リハマネ加算Ｂ(イ)算定

2022年度の活動総括

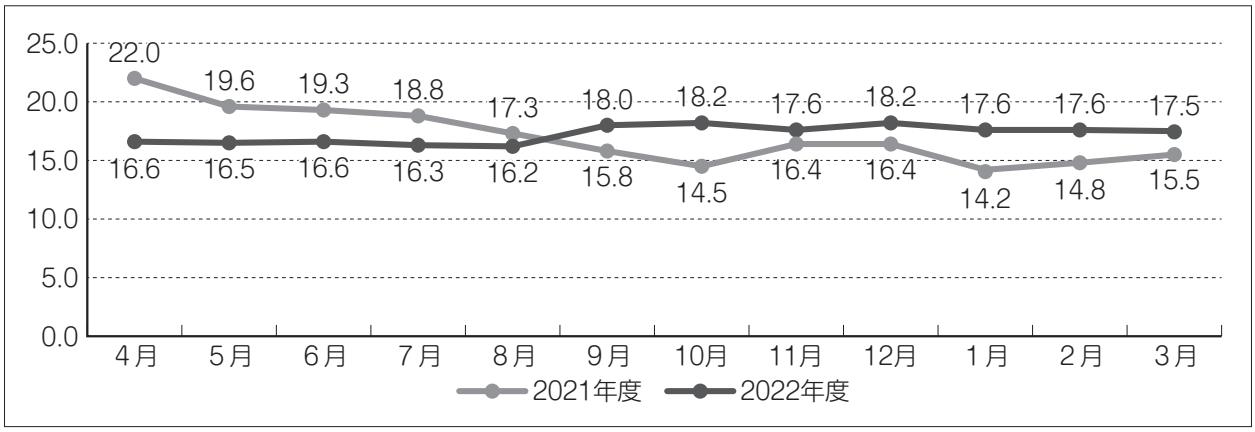
2022年度はリハマネ加算Ｂ(イ)の算定に取り組み、当初10%の利用者への算定を計画していたが、医師やケアマネの協力もあり、目標をはるかに上回る95%の利用者に算定することができた。2020年2021年と利用者数はコロナ禍の影響で伸び悩んでいたが、withコロナ時代に入り、感染対策をしつつ廃用予防・体力向上を希望される方が増え、１日利用者数も増加した。

2023年は、2024年の医療・介護同時改訂に向けて科学的介護情報システム「LIFE」の準備などを進めていくこと、医療(入院・外来)と介護の連携を目的に病棟スタッフとの連携をより深めていきたいと考えている。

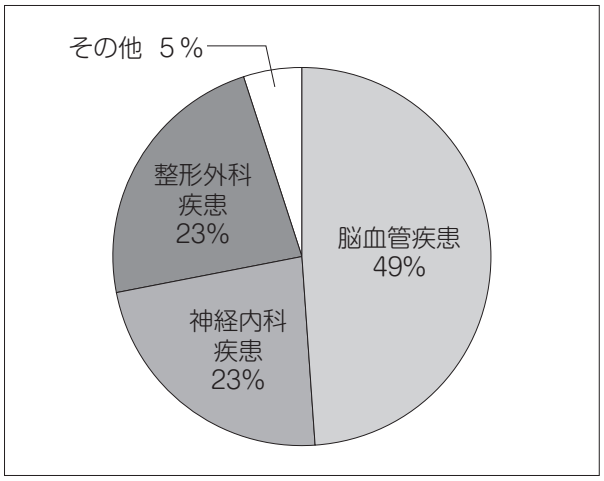
【2022年度 通所リハ利用のべ人数】



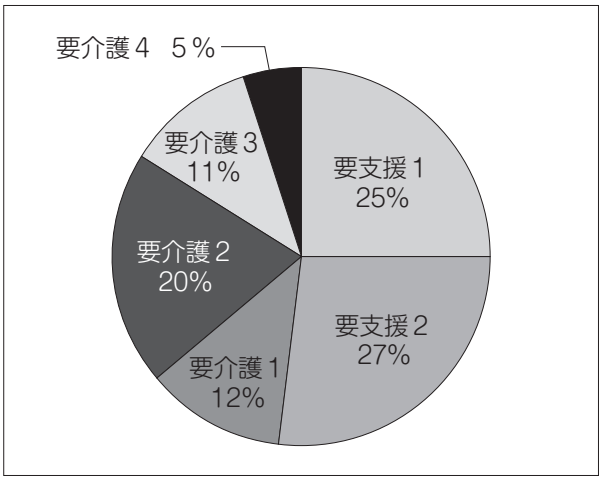
【通所１日平均利用者数(2021－2022年度比較)】



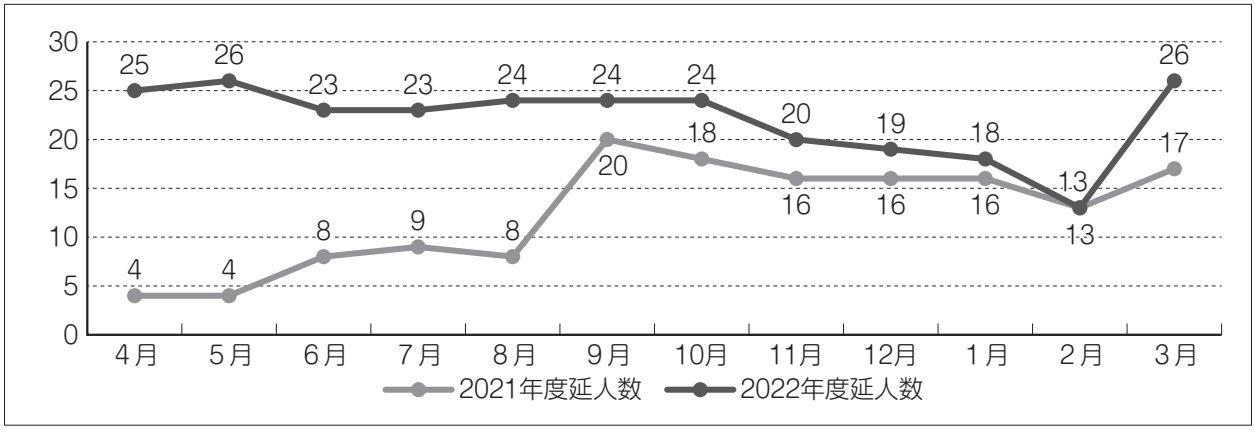
【疾患別割合】



【介護度割合】



【訪問リハ 2021－2022年度 月延べ人数比較】



8-1 医療安全管理室

部署紹介

済生会東神奈川リハビリテーション病院医療安全管理室は、医療安全管理室室長、医療安全管理者(専従)で構成されている。質の高い安全な医療を提供することを目的として、院内各部署の医療安全対策委員と協働し医療安全管理に取り組んでいる。

2022年度の部署目標

医療安全文化の醸成を促進し、安全な医療を提供する

業務内容

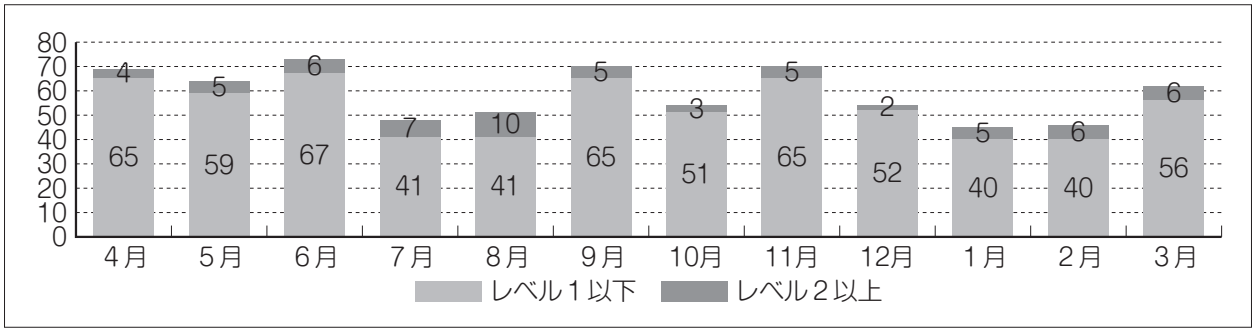
1．インシデントレポートの集計、分析、評価
2．医療安全研修
3．医療安全ラウンド
4．医療安全対策マニュアルの作成及び改訂
5．医療安全ニュースの発行
6．医療安全対策委員会の運営
7．医療安全カンファレンス
8．各部署における医療安全業務改善計画及び実施状況の把握
9．患者・家族のクレーム対応
10．職員からの医療安全に関する相談への対応
11．連携病院との相互評価

業務実績

1．インシデントレポート集計結果

2022年４月から2023年３月までのインシデント報告件数はで706件であった。

【2022年度 月別報告件数(合計：706件)】



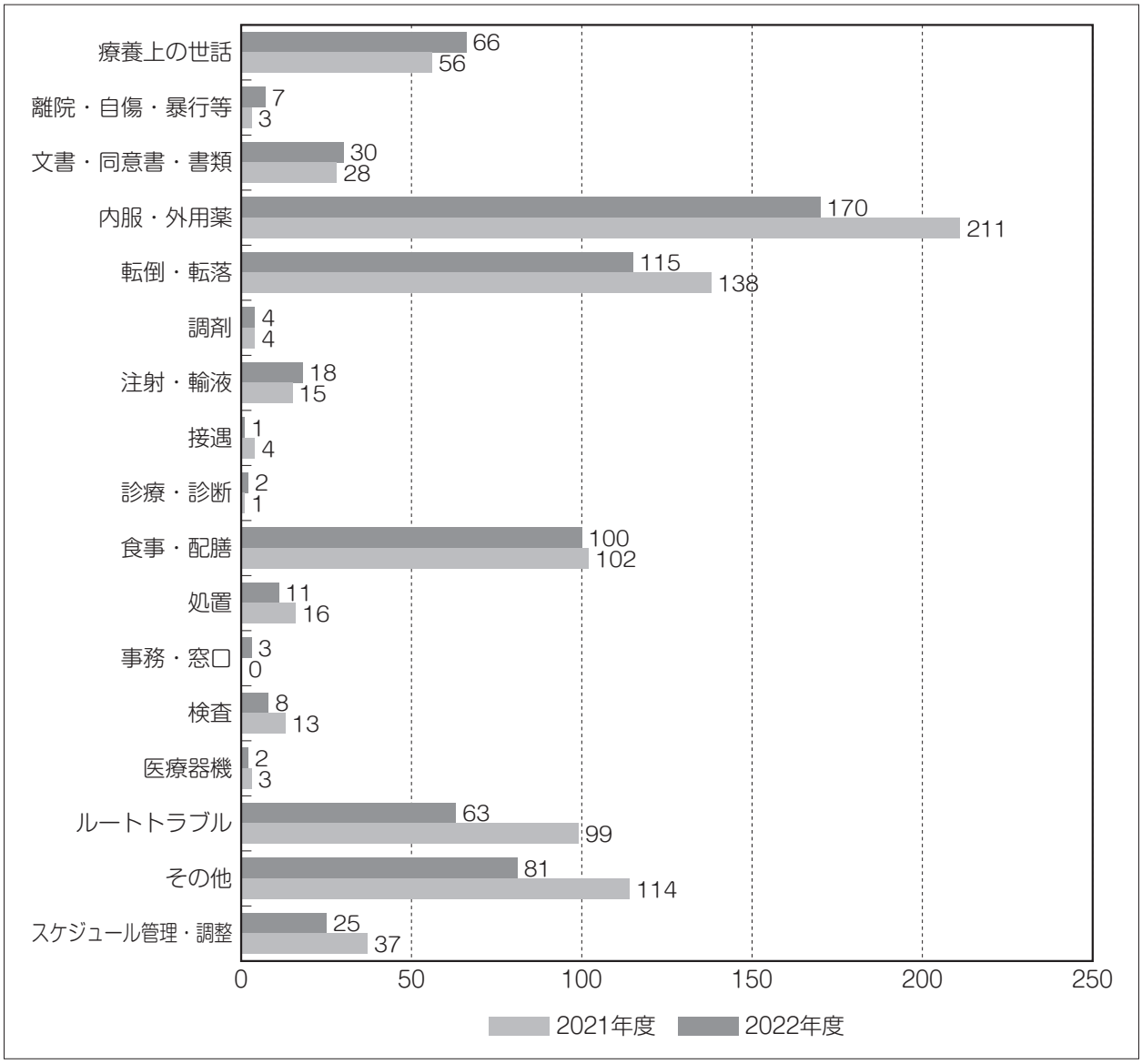
【インシデント集計結果】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	総計
レベル１以下	65	59	67	41	41	65	51	65	52	40	40	56	642
レベル２以下	4	5	6	7	10	5	3	5	2	5	6	6	64
総　　計	69	64	73	48	51	70	54	70	54	45	46	62	706

【部署別月件数】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	総計
診　療　部	1	2	0	0	0	3	2	0	2	0	0	1	11
看　護　部	50	39	55	32	37	46	39	53	40	35	38	46	510
セラピスト部	10	21	12	16	9	11	7	5	9	1	5	11	117
薬　剤　科	0	1	1	0	1	4	3	0	0	0	0	2	12
栄　養　科	4	1	4	0	4	5	3	12	2	8	2	2	47
地域リハビリテーション	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
事　務　部	3	0	1	0	0	1	0	0	1	1	0	0	7
医療安全管理室	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
総　　計	69	64	73	48	51	70	54	70	54	45	46	62	706

【事象別報告件数】



2. 医療安全ラウンド

医療安全対策チームと看護部のリスクマネジメント委員でラウンドを実施した。

病棟は18回（３病棟の合計）、薬剤科、栄養科、臨床工学科、ADL訓練室、ST訓練室、放射線科は３回、検査科、機能訓練室、外来は２回ラウンドを実施し、レポートにてフィードバックした。

3. 医療安全対策マニュアルの作成及び改訂

年１回改訂した。

4.医療安全ニュース

外部から発信されている医療安全情報等を院内で共有できるように医療安全ニュースとして2022年４月から１年間で10回実施した。

5. お知らせ配信

11回配信した。

6. 医療安全研修

研　修　会	開　催　日	テーマ：内容	対　象　者
新採用者 オリエンテーション	４月１日／随時	病院の職員として知っておきたい安全行動	新採用者
実習生 オリエンテーション	随時	病院で必要な安全行動	看護実習生 セラピスト実習生 薬学部実習生
第１回 医療安全セミナー	７月　集合研修、 ｅラーニング	転倒予防	全職員
第２回 医療安全セミナー	12月　ｅラーニング	患者誤認防止、医薬品の副作用について	全職員

7. 医療安全対策地域連携

１－１　連携を組んでいる神奈川県病院との相互評価を計２回実施した

１－２　連携を組んでいる２病院とは各１回ずつ自己評価と訪問ラウンドにて評価を実施した。

2022年度の総括

医療安全セミナーでは歩行が自立レベルとなってからの転倒が多く報告されていた事に着目し、セラピスト部講師を依頼し転倒予防の講習を行った。

病棟緊急時シミュレーションでは訓練の一環としてコードブルーも実際に発令し、職員の招集も行った。シミュレーションを行った結果今後の課題も出てきたが、定期的にやりたいというスタッフからの声もあり積極的に取り組む姿勢も見られた。

8-2 感染管理対策室

スタッフ体制

医師　1名、感染管理認定看護師　1名(専従)

2022年度行動計画

一人ひとりの職員が、感染対策の必要性を理解し、標準予防策をはじめとする必要な感染対策を実践することで、医療関連感染の発生が減少する。

部門内2022年度の活動総括

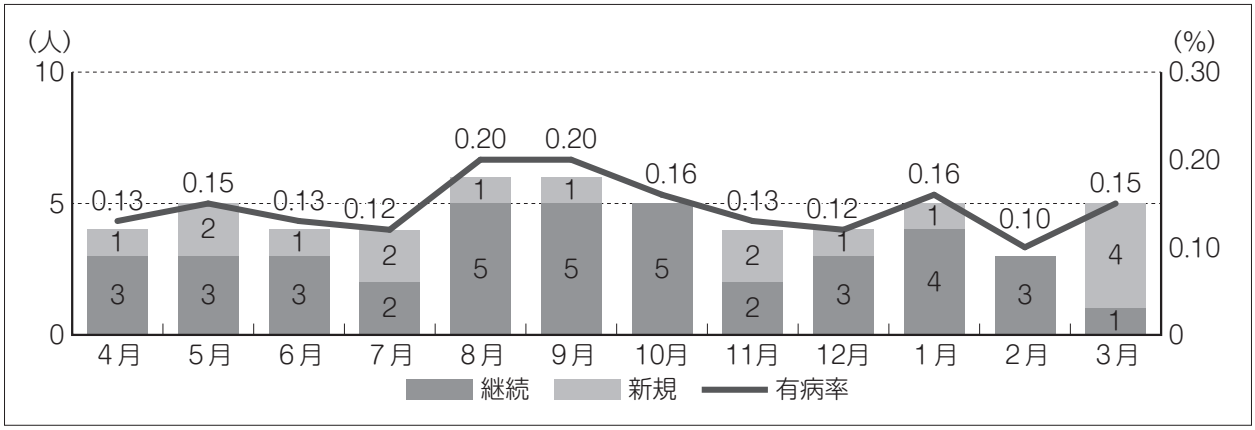
1．サーベイランスの実施と院内感染対策サーベイランス事業へのデータ提出
2．院内感染予防マニュアルの作成及び改訂
3．感染防止技術の実施状況の確認と指導
4．感染症発生時の対応
5．感染管理教育の実施
6．職業感染防止
7．ファシリティマネジメントの推進
8．院内へ感染対策や疫学的な情報の提供
9．全職員を対象に感染対策の相談対応
10．院内感染対策委員会や感染対策チームと関係部門との調整

2022年度の実績

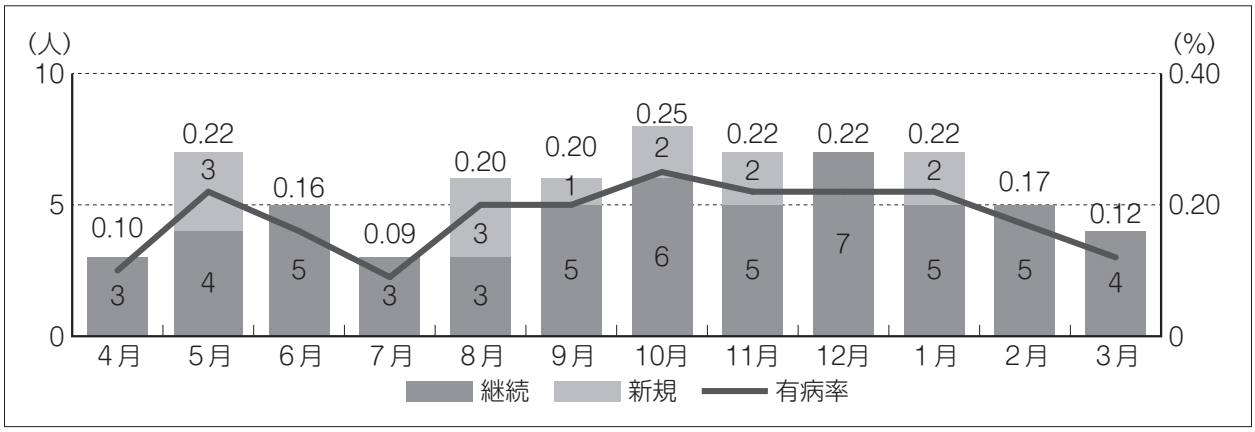
1．サーベイランスの実施と院内感染対策サーベイランス事業へのデータ提出

1）耐性菌サーベイランス

【MRSA有病率推移】



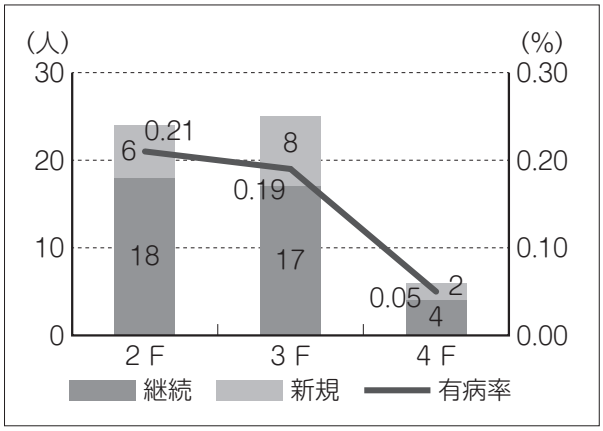
【ESBL有病率推移】



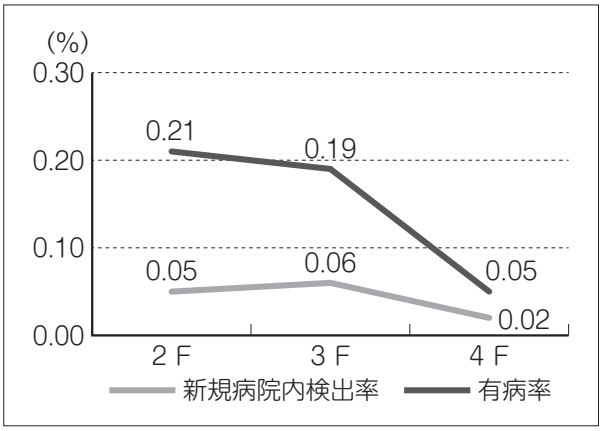
有病率の平均はMRSAで0.15%、ESBLは0.18%であった。

新規検出の多くが前医からの持ち込みであり、MRSAについて薬剤感受性検査上では院内伝播が疑われる事例はなかった。

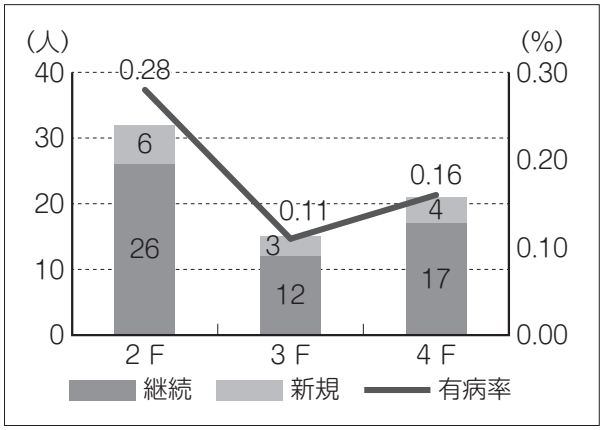
【MRSA有病率 病棟別】



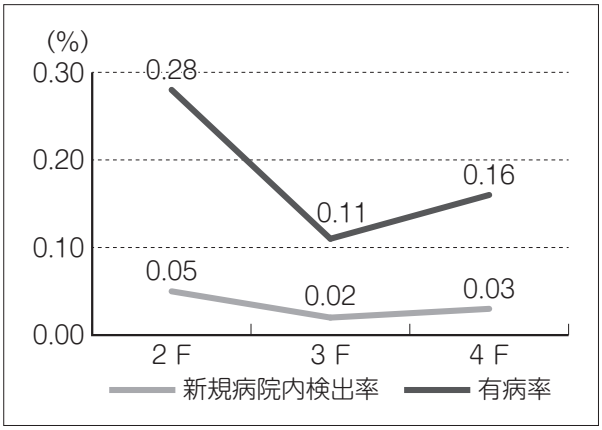
【MRSA】



【ESBL有病率 病棟別】

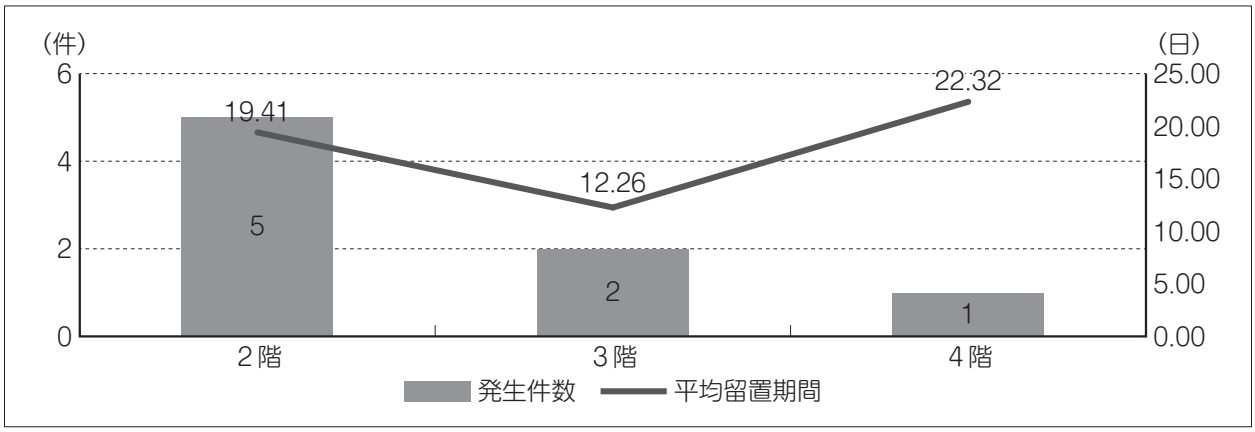


【ESBL】

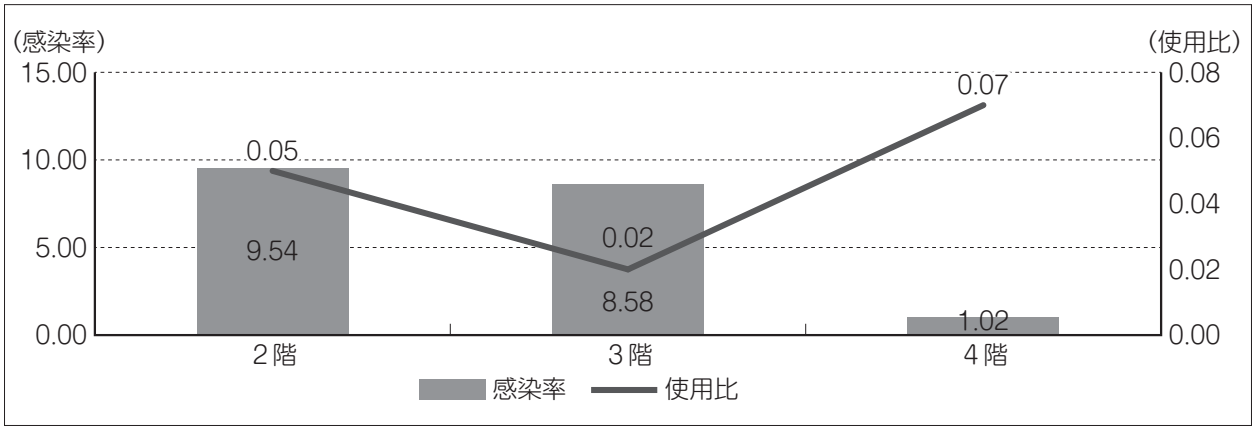


2）尿道留置カテーテル関連尿路感染サーベイランス

【CA-UTI発生状況】



【CA-UTI発生状況】



＊感染率：CA-UTI発生件数／延べ尿道留置カテーテル使用日数×1000
＊使用比：延べ尿道留置カテーテル使用日数／延べ入院患者数

サーベイランス診断基準に該当した症例は８件であった。

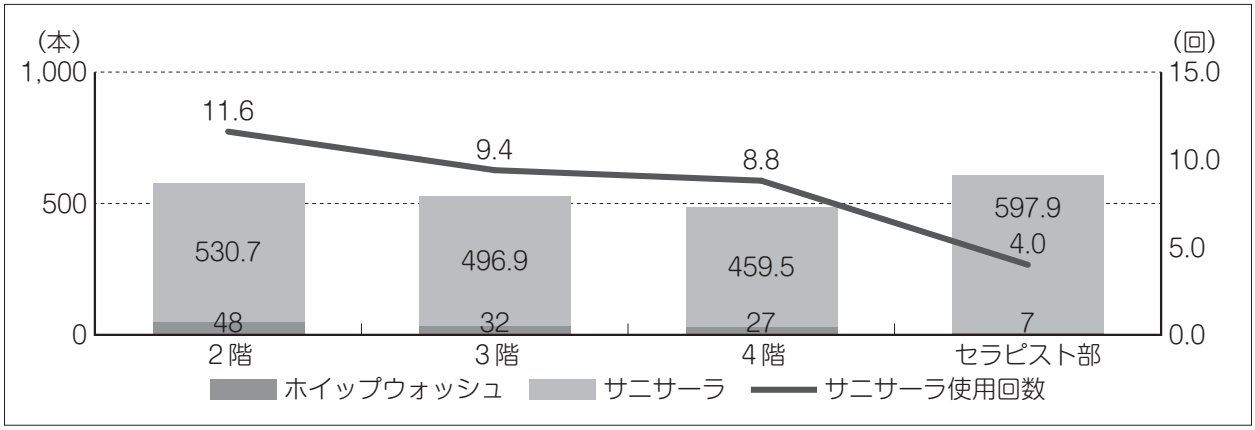
２．院内感染予防マニュアルの作成及び改訂

月・回	項　　目	内　　容
６月	その他の病原体別予防策	新規作成
７月	尿道留置カテーテル関連尿路感染防止	１、３－１）、３）改訂
10回	新型コロナウイルス感染症 患者・職員対応マニュアル	改訂

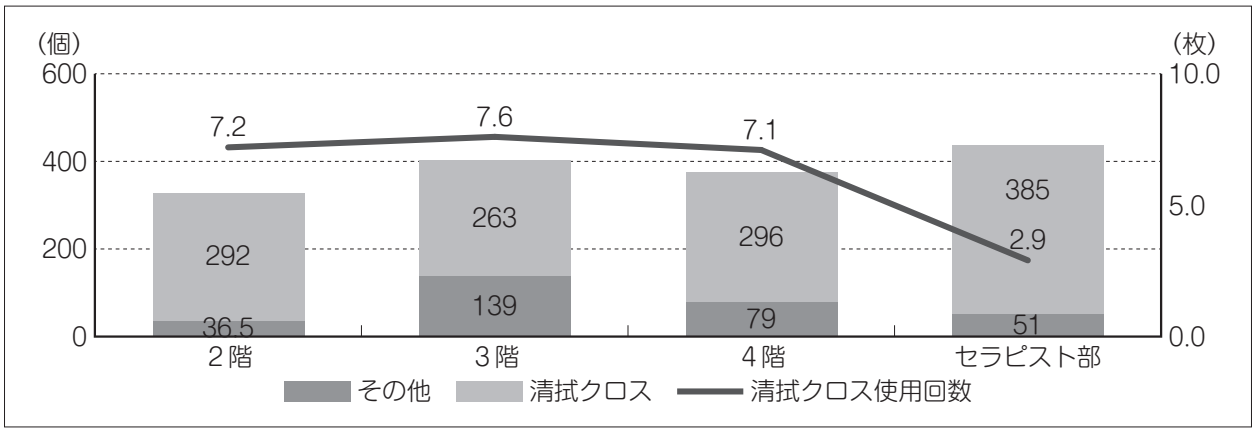
3．感染防止技術の実施状況の確認と指導

尿道留置カテーテルの管理、耐性菌対策、環境整備、手指衛生や個人防護具着脱などについてラウンドを行い、適宜指導を行った。

【手洗い製品使用状況 病棟別】



【環境クロス使用状況 部署別】



＊使用回数：使用量／延べ入院患者数

サニサーラ使用回数は３部署で10回を下回る数値であった。

清拭クロスの使用量は病棟間での大きな差はなかった。

〔個人防護具備蓄数の見直し〕

COVID-19発生時の対応策として個人防護具備蓄数を増量した。

物　品　名	増　量　数
サニサーラAqua light	60本
アイソレーションガウン	４箱(400枚)
フェイスシールド	２箱(600枚)
N95マスク	７ケース(840枚)

4．感染症発生時の対応

月	感染症	内容
4月	COVID-19	4階病棟　患者1名
8月	COVID-19	3階病棟　患者8名、職員12名
10月	帯状疱疹	4階病棟　患者1名、濃厚接触者3名
11月	COVID-19	4階病棟　患者3名
12月	COVID-19	3階病棟　患者4名、職員2名

5．感染管理教育の実施

研修会	開催日	テーマ	対象者	参加者
新入職員 オリエンテーション	4月入職時	標準予防策と 院内ルール	新採用者	全員
第1回 感染対策セミナー	7月	環境整備	全職員	100%
第2回 感染対策セミナー	11月	誤嚥性肺炎予防	全職員	100%
実習 オリエンテーション	随時	院内感染対策	実習生	看護師、セラピスト

6．職業感染防止

ワクチン種類	月	接種人数
新型コロナワクチン接種	10月～11月	75名
インフルエンザワクチン接種	11月	191名
新型コロナワクチン接種	12月～1月	85名

7．ファシリティマネジメントの推進

清掃委託業者変更に伴い、清掃業務基準表、標準作業書等の確認を行った。

新型コロナウイルス感染症対応として、給排気システムの確認を行い、クリーンパーティションを導入した。

8．院内へ感染対策や疫学的な情報の提供

院内での感染症発生時、市中の感染症流行状況について、院内感染対策委員会や師長会議等で情報提供を行った。

9．全職員を対象に感染対策の相談対応

電話、メール等にて相談に対応した。

10. 院内感染対策委員会や院内感染対策チームと関係部門との調整

院内感染対策委員会は臨時開催、書類審議を含め18回開催した。

院内感染対策チームでは、週１回ラウンドを行い、結果をフィードバックした。

1 衛生委員会

活動目的

労働災害の防止と快適な職場環境の整備を図り、職員の安全と健康の確保を目的とする。

2022年度の活動総括

毎月１回開催し、下記事項について審議した。

①職員の健康障害を防止するための基本となるべき対策に関すること。

②職員の健康保持増進を図るための基本となるべき対策に関すること。

③労働災害の原因及び再発防止対策で衛生に係るものに関すること。

④院内暴力を発生防止するための基本となるべき対策に関すること。

2022年度の実績

- 月１回委員会開催
- 院内巡視(産業医 月１回、衛生管理者 随時・少なくとも週１回)
- 職員定期健康診断および特別健康診断の実施(実施率100%)
- 職員定期健康診断二次検診受診等追跡調査
- 各予防接種の実施(インフルエンザ、水痘、ＨＢワクチン、新型コロナワクチン)
- 院内ハラスメントの報告および対応検討
- 長時間労働者の健康維持確保のため時間外労働時間の集計および対応を検討(産業医との面談含む)
- ストレスチェック結果に基づき傾向分析および対応の検討

2 個人情報保護委員会

活動目的

個人情報の適正な取り扱いを院内に周知徹底する。

2022年度の活動総括

年１回以上の開催、適宜必要により臨時開催

院内および外出時の個人情報管理(パソコン、USBメモリ、個人情報を記載した書類等)について、院内ルール・運用の再検討、周知

ｅ-ラーニングによる職員向けの個人情報保護に関するセミナーの開催

2022年度の実績

入院患者の外出・外泊許可証の取り扱い、紛失時の対応等の周知。

個人情報取り扱いについての院内管理体制の見直し、ルールや運用を再検討。

2022年８月に臨時開催、個人情報の紛失に関する議題を検討。

- 職員向けセミナーの開催

開催日程：2022年８月１日～８月16日まで

テ ー マ：SNS時代に知っておきたい医療職の情報伝達心得

ｅ-ラーニングを利用した研修を実施

閲 覧 者：170名

履 修 率：80.6%

3 医療ガス安全管理委員会

活動目的

診療の用に供する医療ガス及び医療ガス設備の安全管理を図り、患者さんの安全を確保することを目的とする。

2022年度の活動総括

医療ガスの正規取り扱い及び医療ガス設備の安全管理を実施。

2022年度の実績

- 医療ガス配管設備定期保守点検
  ３ヶ月点検を実施。
- 医療ガス安全管理講習会
  関係職員を対象にボンベの安全な取り扱いと医療ガス設備の保安及び知識習得の講習会実施。
- ３・４階病棟に、医ガス・吸引設備を８か所増設。

4 事故調査委員会

活動目的

医療事故発生後の速やかな事故原因の究明と今後の対応策を検討する。

2022年度の活動総括

事故調査委員会開催案件は発生しなかった。

2022年度の実績

＊特段無し

委員会構成：５名

5 災害対策委員会

活動目的

火災予防及び防災対策の強化を図るとともに職員の防災意識の向上と適切な災害対応を目的とする。

2022年度の活動総括

災害対策マニュアルの作成と適正化を図り、防火防災訓練(通報・連絡・初期消火・避難誘導の部分訓練)を実施し、防災意識の向上が図れた。

2022年度の実績

- 防火防災訓練の実施
  - ・新規採用職員採用時研修
  - ・消火器訓練、消防設備説明会

6 医療安全対策委員会

活動目的

医療ミス、医療事故のインシデントレポートの情報共有・調査分析により、事故の傾向を明確にして、医療事故防止・再発防止を目的に毎月開催している。

2022年度の活動総括

院内で発生・報告のあったインシデント・アクシデント情報の共有を行い、当該部署だけではなく院内全体で対策について検討を行った。

2022年度の実績

1．委員会開催数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
出席率(%)	75	83	83	83	100	100	83	100	92	100	92	83

2．審議内容

	審　議　事　項	対　　策
2022年4月	2021年度薬に関するインシデントが前年度に引き続き最多で、内服自己管理開始後の報告も一定数あり	内服自己管理開始前カンファレンスに薬剤師の参加を依頼
6月	AEDの「小児」表示から「未就学児」への表示変更について	メーカーからの対応策を待ち、院内でも対応していく
7月	訓練中の転倒による急性硬膜下血腫発症の事象報告	関係者での情報共有
8月	夏季屋外歩行訓練の実施条件の見直し	診療部より提示された変更条件を一部承認し、追加修正も依頼
10月	ベッド柵を患者自身が外しての転落インシデント数件あり	ベッド柵を固定する万能ベルトの導入
11月	診療部より、外来で行っているボトックスとゼオマインの2回目以降の同意書を説明実施の記録と患者説明用紙の配付に変更の申請	実施する医師記録の統一や薬剤変更時の対応等詳細を再度診療部で検討してもらう
12月	ボトックスとゼオマインの2回目以降の同意書について	診療部より修正案、対策立てられ診療録委員会の承認あり、運用開始となる
2023年1月	身体抑制に関する同意書の内容見直し	抑制の名称以外にも変更が必要な表現あり、全体を見直し

1月	抑制の名称が部署や個人により差異があり、カルテの記載も	名称統一を行いカルテや同意書の名称も修正し周知
2月	身体抑制に関する同意書修正後の内容確認	委員会内では承認を得たため、診療録委員会の承認を得た後に運用開始
3月	病棟緊急時シミュレーション実施について	訓練の一環としてコードブルーも実際に発令し職員の危機管理への意識を高める

7 院内感染対策委員会

活動目的

院内感染の発生を低減するための方針を決定し、感染予防に向けた事項を調査審議するとともに、感染対策に有効な意見を推進し、院内感染の予防に向けた提唱者の役割を果たす目的で毎月１回開催している。また、緊急時には臨時委員会も開催している。

2022年度の活動総括

耐性菌検出状況、抗菌薬使用状況、感染症発生状況の報告、新型コロナウイルス感染症やワクチン接種、院内感染予防マニュアルの改訂等に関連した協議や決済、評価を中心に行った。

2022年度の実績

開催日	種　類	内　　容	参加率
４月８日(金)	臨　時	院内での新型コロナウイルス感染症発生について	73%
４月14日(木)	定　期		82%
５月12日(木)	定　期		91%
５月27日(木)	臨　時	新型コロナウイルス感染症 患者・職員対応マニュアル改訂について 屋外訓練、家屋調査可	82%
６月９日(木)	定　期	新型コロナウイルス感染症 患者・職員対応マニュアル改訂について ST見学可	91%
６月22日(木)	臨　時		100%
７月14日(木)	定　期		91%
８月４日(木)	定　期		91%
８月15日(月)	臨　時	３階病棟で発生した新型コロナウイルス感染症経過報告	100%
９月８日(木)	定　期		91%
10月３日(月)	臨　時	新型コロナウイルス感染症 患者・職員対応マニュアル改訂について	100%
10月13日(木)	定　期		91%
11月10日(木)	定　期		100%
12月２日(金)	臨　時	４階病棟で発生した新型コロナウイルス感染症経過報告	100%
12月８日(木)	定　期		100%
１月12日(木)	定　期		92%
２月９日(木)	定　期		100%
３月９日(木)	定　期		100%

8 褥瘡対策委員会

活動目的

病院全体としての組織的な対策によって、患者さんの褥瘡の予防及び発生した褥瘡に対する適切な処置・治療の実施を指導・管理することを目的とする。

2022年度の活動総括

• 定例開催日

毎月第３火曜日 10：30開催

褥瘡患者およびリスクのある患者さんの回診、褥瘡対策の診療材料の検討等を行っている。

2022年度の実績

• 院内褥瘡予防対策勉強会の実施

『体交枕のポジショニングについて』 e-ラーニングにて実施。

受 講 期 間：2023年３月９日から2023年３月31日まで

対 象 者：205名

視 聴 者 数：130名

未視聴者数：75名

視 聴 率：63.4%

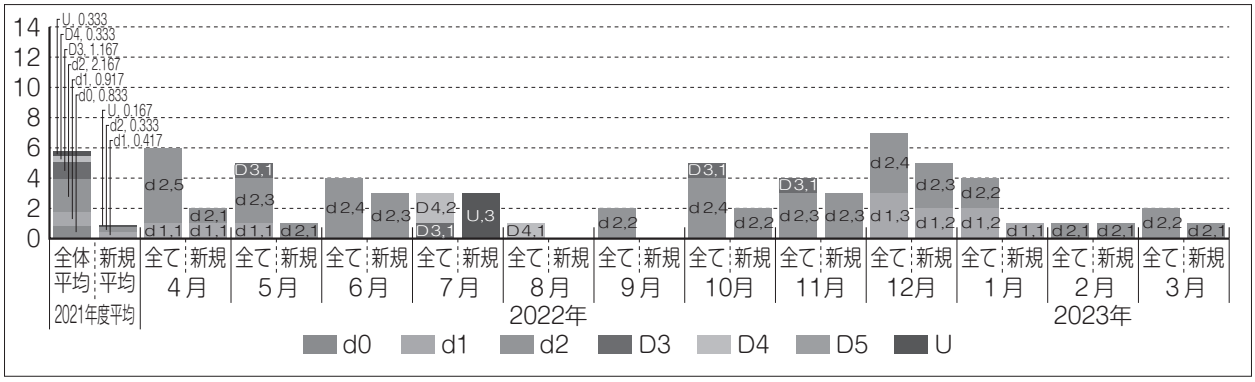
• 体圧分散式エアマットレス(マイクロクライメイト ビッグセルアイズ)

各病棟１台、リース開始

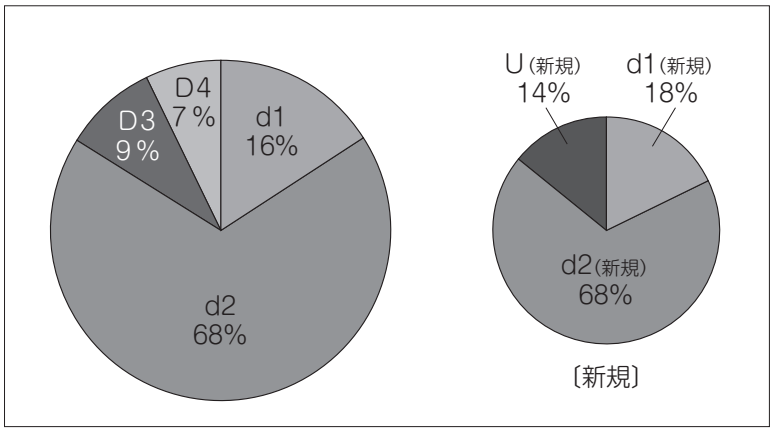
褥瘡患者状況については別紙参照

《褥瘡保有者の各種統計》

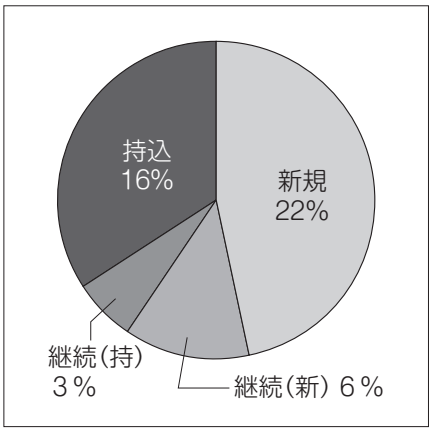
【DESIGN-R分類の深さ別件数】



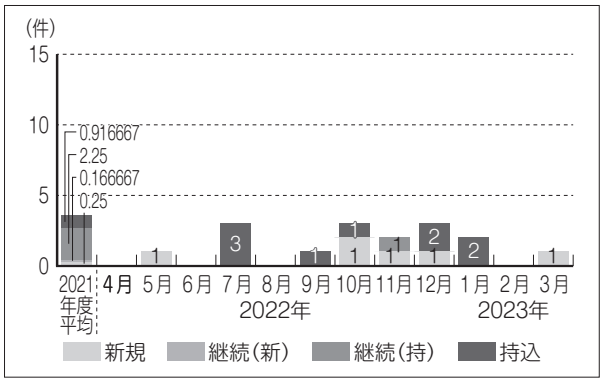
【DESIGN-R分類の深さの割合】



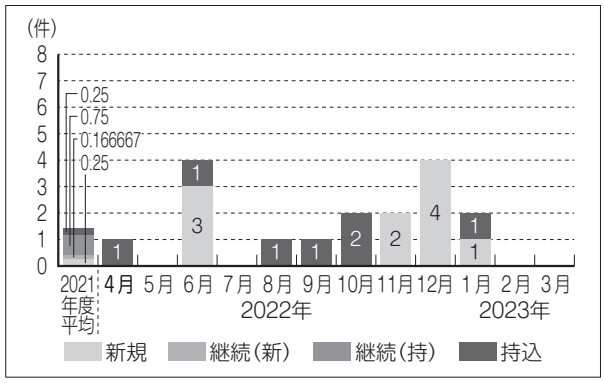
【区分別の件数割合】



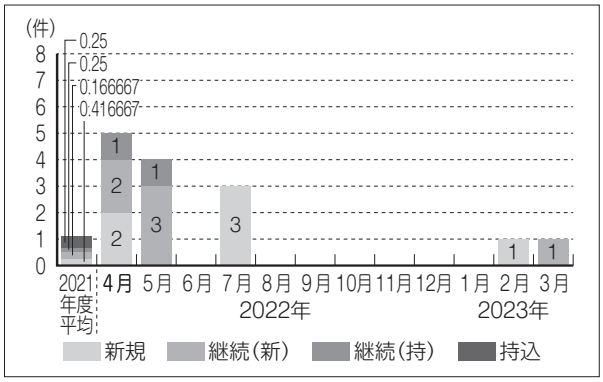
【褥瘡区分別件数（２Ｆ病棟）】



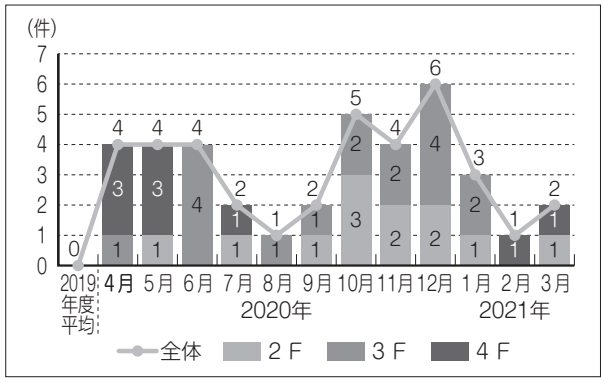
【褥瘡区分別件数（３Ｆ病棟）】



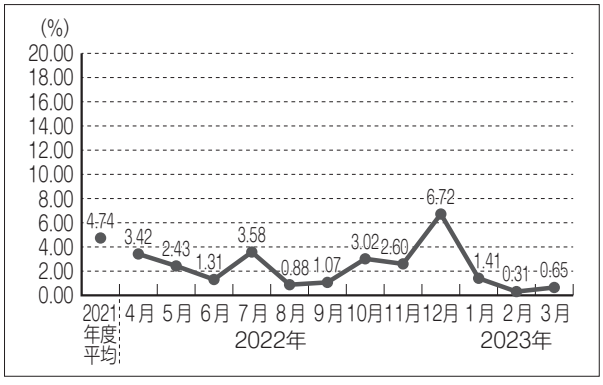
【褥瘡区分別件数（４Ｆ病棟）】



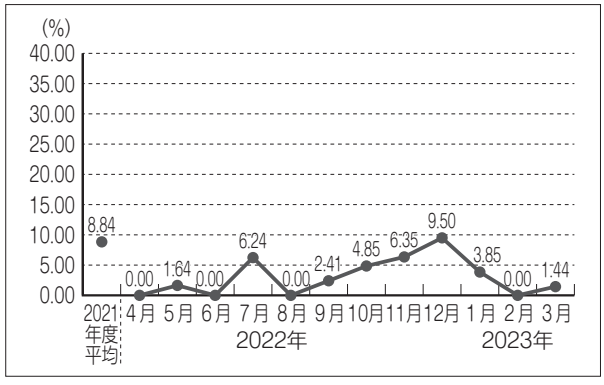
【実人数（全体）】



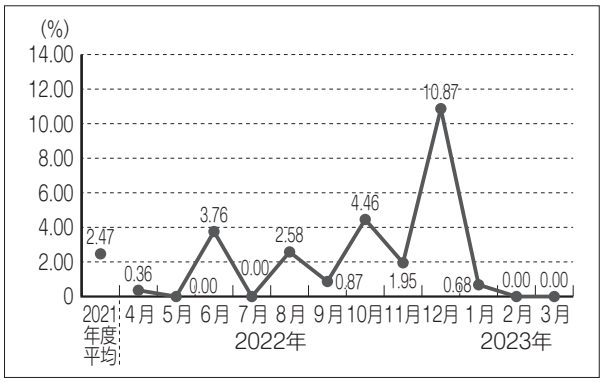
【褥瘡有病率（全体）】



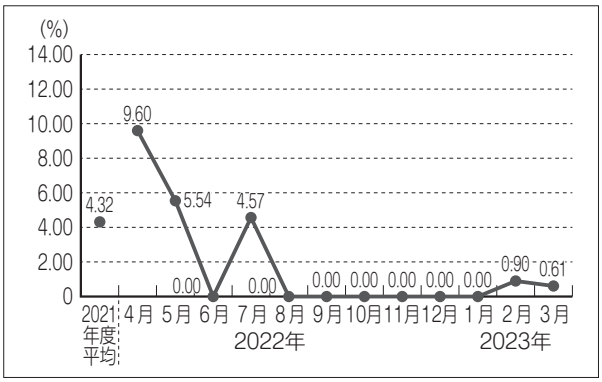
【褥瘡有病率（２Ｆ）】



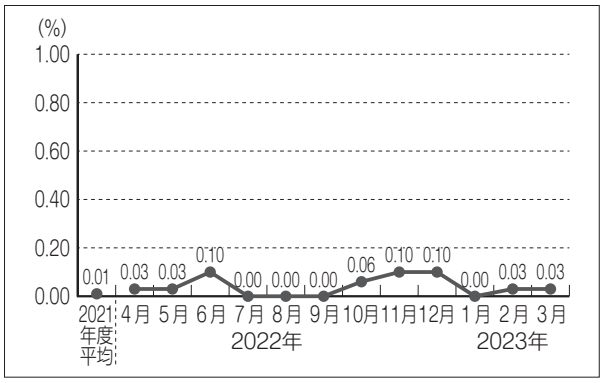
【褥瘡有病率（３Ｆ）】



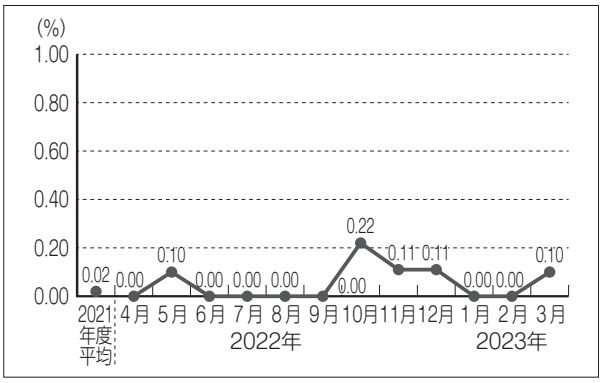
【褥瘡有病率（４Ｆ）】



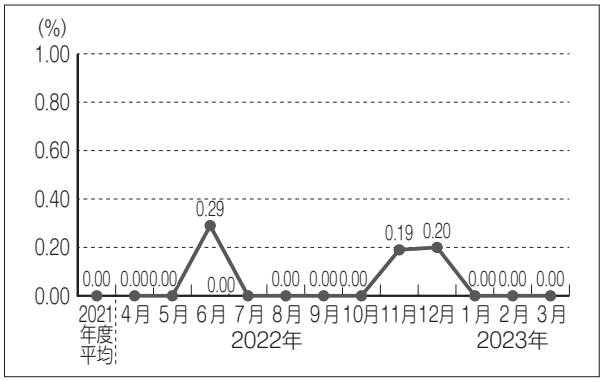
【褥瘡新規発生率（全体）】



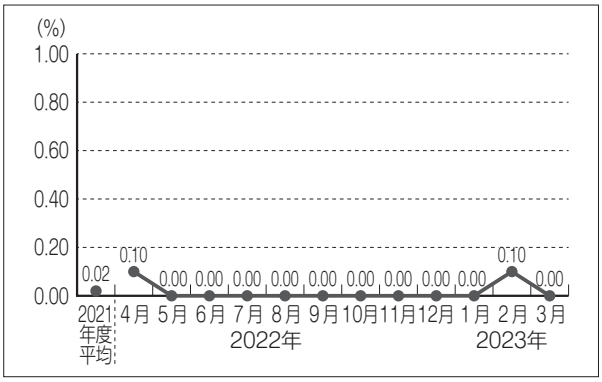
【褥瘡新規発生率（２Ｆ）】



【褥瘡新規発生率（３Ｆ）】



【褥瘡新規発生率（４Ｆ）】



9 栄養委員会

活動目的

病院長の諮問機関として、給食の管理、運営の質的向上を図ることを目的とする。

2022年度の活動総括

• 定例開催日
毎月第４木曜日 16：15開催

患者給食献立表の承認、行事食提供の確認、検食状況の確認・意見抽出、患者給食の食数・栄養指導・材料費・委託費等の栄養科データの報告等を毎月行っている。また、栄養管理マニュアルの改訂、嗜好調査の実施、経管栄養の見直し等を行った。

2022年度の実績

- 経管栄養剤「メイバランスHP1.5」を採用品へ
- 在宅訪問栄養指導の「運営規定」「契約書」「重要事項説明書」改訂
- 在宅訪問栄養指導の介護保険システム導入により算定開始
- 食種別食形態基準の改定
- 軟菜食形態の主食設定を全粥から軟飯へ変更
- 新しい食器の導入（トレー、主菜皿）
- 毎月の行事に合わせた行事食及びコメントカードを提供
- ９月、３月に入院患者を対象とした嗜好調査を実施
- リクエストメニューの一部をサイクル献立および行事食として提供
- 院内約束食事箋および食形態基準の見直し等を行い、栄養管理マニュアルを改訂
- 補助栄養食品の選定

10 診療録委員会

活動目的

病院長の諮問により、診療録の管理・運営に関する基本指針並びに関係事項を審議することを目的とする。

2022年度の活動総括

• 定例開催日
毎月第１火曜日 16：00開催

病院内の電子カルテを含めた診療録の管理・運用の確認、それに伴う院内でのカルテ監査の実施を行い、規程や方針に沿った管理が出来ているか確認している。

また、院内の説明書や同意書に関する規程の策定、カルテ用語集の作成、退院サマリーの作成状況確認等を行い、診療録の管理に努めている。

2022年度の実績

診療録の開示に関する管理・運用の確認、診療録で使用する略語をまとめたカルテ用語集の作成・修正、院内の説明書や同意書の管理、退院サマリーの作成状況確認(2023.5.1時点で2022年度の退院サマリー作成率は100%達成済み)

また、当院の診療記録が適正に記載されるように、年間２回の院内カルテ監査を実施して、診療録の適正化を図っている。

退院患者のサマリー管理について、医師だけではなく看護師・セラピストのサマリー作成状況を把握出来るように、管理簿を作成し、委員会で報告することとした。併せて、退院患者の病名精査の為、ICD-10コードを用いた病名の確認を行うこととした。

11 DPCコーディング委員会

活動目的

病院において医療を提供する上で、質の高いデータが継続的かつ適切に提供できる体制を構築し、当院の発展に寄与することを目的とする。

2022年度の活動総括

回復期リハビリテーション病棟入院料１を算定する為に必要なデータ提出加算の施設基準要項となっており、院内で行われている診療行為を適切に提出できる体制を構築している。提出の遅延がないように、適宜データの整理、入力の督促等を併用して行っている。

また、提出しているデータの入力について、適切なデータを作成出来るように管理・運用を行っている。

2022年度の実績

データ提出加算算定の承認を受けて以降、３ヶ月毎の本データを作成・提出している。また、データチェックについても滞りなく行い、提出データの遅延も無く運用している。

提出するデータはそれぞれ各職種の担当者が入力しており、データを滞りなく提出出来るように、各担当者への催促と入力漏れや間違いが無いよう確認している。また、ICD-10コードに則った正式な病名を登録出来るように、医師に対しても積極的にアプローチを行っている。

データ入力をする各担当部署へ適宜連絡をして、督促や入力漏れや間違いの訂正等を行うことで、不備が少なくなってきており、データの完成が早くなっている。

一部のがんの内服による治療を行っている患者さんに関して、化学療法の確認項目の入力漏れが発生していた為、薬剤師とも連携するようにして漏れなく入力出来るようにしている。

12 教育委員会

活動目的

当院の医療の質向上と個人のスキルアップを図る事、また職員が院内研修を把握し、計画的に研修参加できる環境を整備することを目的とする。

2022年度の活動総括

2022年度は昨年度予定していた病院機能評価受審が延期したこともあり、本年度もｅ-ラーニング研修を積極的に活用し、医療の質向上に必要な研修を充実した。

また、今年度は院内の管理体制強化を目的として、管理職を対象とした階層別研修も実施した。QC発表会についても前年度同様に実施し、昨年とは異なる視点から院内改善活動の取り組みを行なった。他職種の業務について理解も深まり、他職種連携の向上につながった。

2022年度の実績

- 入職式・オリエンテーション（４月１～５日）
- コンプライアンス研修（６月1日～30日　e-ラーニング）
- 接遇研修（６月３日～20日　e-ラーニング）
- 臨床倫理研修会（①７月１日～31日／②１月12日～２月28日　e-ラーニング）
- メンタルヘルスケア研修（①７月６日／②３月１日～17日　e-ラーニング※②のみ）
- 医療安全・感染防止対策研修（①７月14日／②11月29日）
- 看護必要度研修会（７月19日～８月19日　e-ラーニング）
- 個人情報保護研修会（８月１日～19日　e-ラーニング）
- ハラスメント研修（９月１日～30日　e-ラー

ニング）
- FIM研修（①９月21日／②10月12日）
- ICF研修（11月15日）
- QC発表会（２月14日）
- 認知症ケア研修（２月24日～３月31日　e-ラーニング）
- 無料低額診療事業研修（３月１日～24日　e-ラーニング）
- 褥瘡勉強会（３月９日～30日　e-ラーニング）

13 図書委員会

活動目的

図書室の整備および有効活用について審議検討を行ない、医学および医療に関連する最新情報を提供し、医療の質の向上を図る。

2022年度の活動総括

- 定例開催日：年に１回、または２回
  院内の新規購入図書・雑誌の申請・承認・周知
  図書の貸出管理
  図書室の整備

2022年度の実績

９月、部署ごとに院内にアンケートを配布。
10月、その申請書類をもとに
①翌年１年間の和・洋雑誌の新規購入・継続・中止について
②書籍の新規購入について
③電子書籍（メディカルオンライン）契約更新の有無について
等、委員会の中で審議を行なった。

【定期購読雑誌】（①と②）

総務課委員が随時図書室に配架。また、書籍については納品後、院内周知として電子カルテのトップページへの記載および図書室内にお知らせを貼付し、数週間図書室の一角にコーナーを設けた。

- 2022年 購入図書数
  書籍 27冊 ／ 雑誌 24種類
- 2023年 蔵書数（３月末）
  計2,638冊（書籍 316冊 ／ 雑誌 27種類）

【電子書籍・メディカルオンライン】（③）

2018年４月～ 導入開始
→ 2022年度 契約更新

14 購買委員会

活動目的

病院で使用する医療機器、診療材料等資機材の購買に関し、必要性・経済性等を審議し、経費の削減等を目的とする。

2022年度の活動総括

医療機器等購入に関し、必要性・経済性等に鑑み審議し経費削減が図れた。

2022年度の実績

- 購買委員会開催

15 患者サービス委員会

活動目的

患者サービスの向上に関する事項について審議を行い、具体的な策を立案して、改善に向けた活動を行うことを目的とする。

2022年度の活動総括

看護部長を委員長とし診療部長、事務部長、医療安全管理者、MSW、医事課長、医事課職員、総務課長、総務課職員をメンバーとし、退院時に記入していただく患者アンケートや患者相談窓口に寄せられたご意見を確認し、改善案について審議してきた。

職員の接遇や、病院のハード面についてなどさまざまなご意見をいただき、できる限りのご要望に対応してきた。

「ご意見・ご感想」で問題が発生した場合は、それぞれの部署にフィードバックして改善を求め、各部署も真摯に受け止め対応してくれた。

「ご意見・ご感想」、「患者アンケート」で職員名が記載された感謝の内容については、該当職員に感謝状の授与を行い病院として感謝を示す。

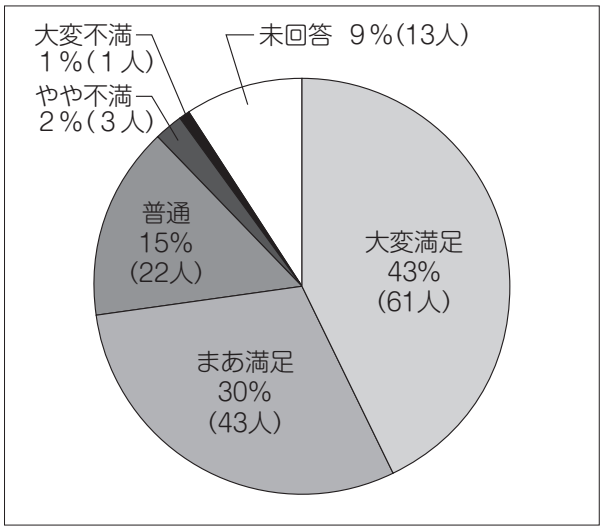
「ご意見・ご感想」の回答は毎月院内掲示を行っている。また、「退院アンケート」・「外来患者満足度調査」の集計結果についても院内掲示を行っている。

2022年度の実績

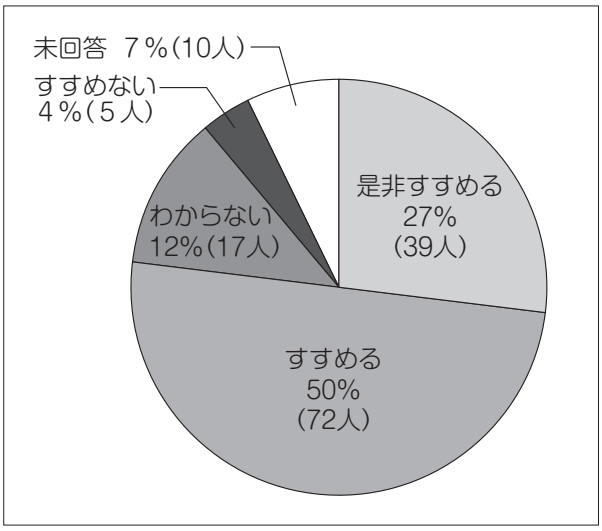
- 月１回委員会開催
  「ご意見・ご感想」の対応および検討（23件）
  「退院アンケート」の対応および検討（143件）
  「外来患者満足度調査」を実施（回答数79件）
  「患者相談窓口」の対応および検討（24件）
  ※アンケートおよび満足度調査の詳細は次項参照

《2022年度 退院アンケート》

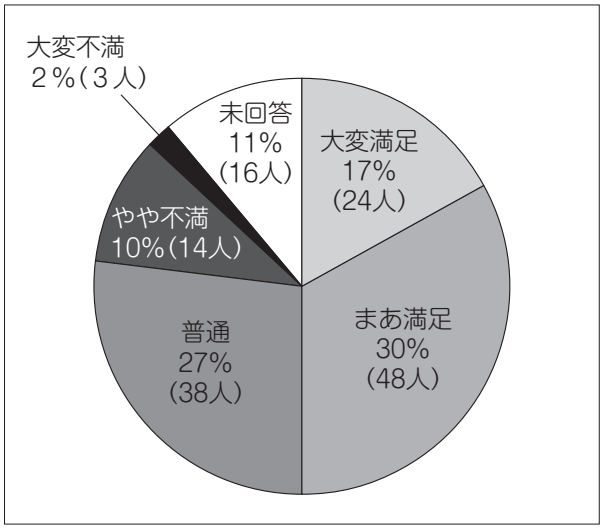
【入院満足度(回答者数＝143人)】



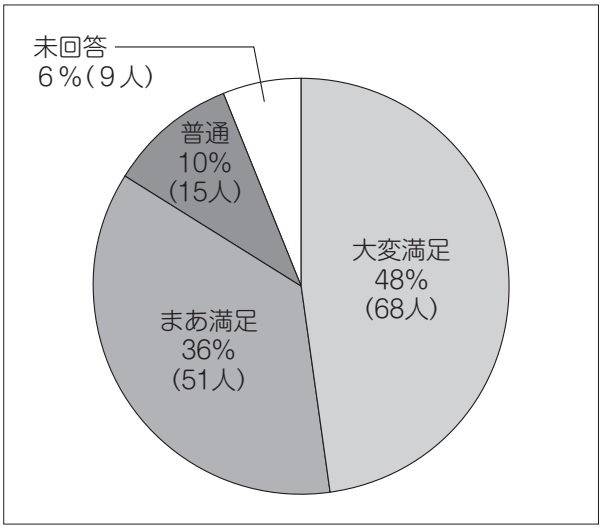
【知人・家族にすすめられる病院か(入院)】



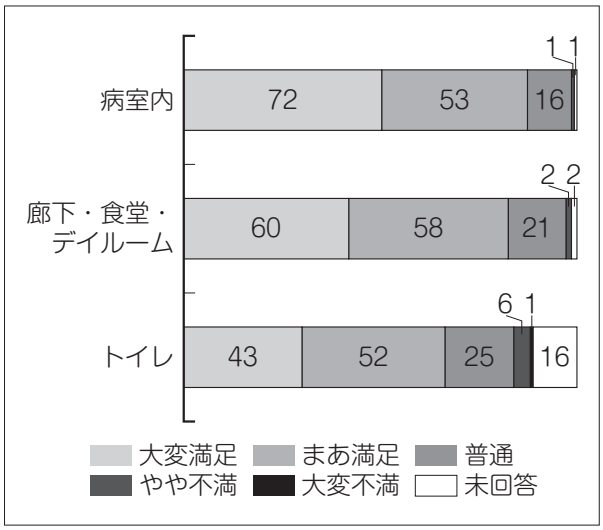
【食事について】



【リハビリテーション満足度(入院)】

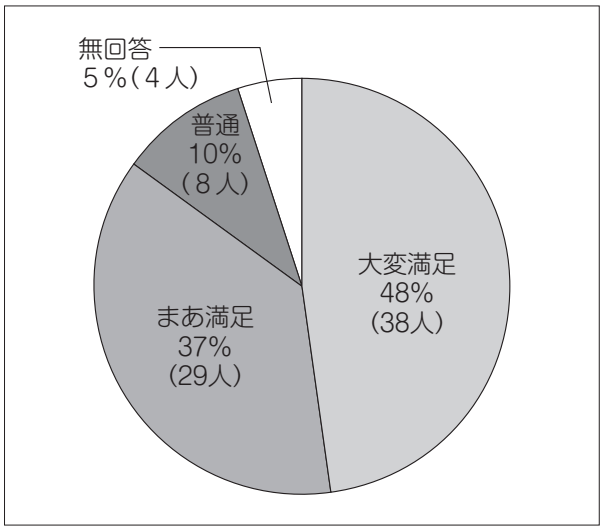


【清掃について】

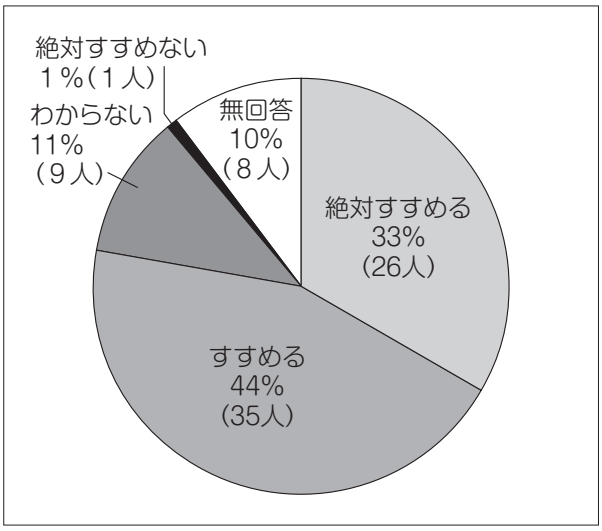


《2022年度 外来アンケート》

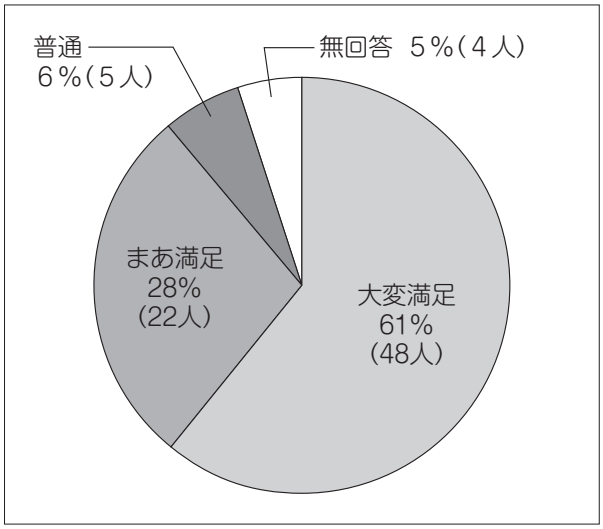
【外来満足度(回答者数＝79人)】



【知人・家族にすすめられる病院か(外来)】



【廊下トイレの清掃】



16 無料低額診療事業委員会

活動目的

恩賜財団済生会創立の本旨と社会福祉の精神に則り、経済的理由により適切な医療を受けることが困難な方々に対して、診療費等の支払いを減免するために必要な事項を定め、もって医療を通して福祉の向上を図ることを目的とする。

2022年度の活動総括

構成メンバーは前年度と変更なし。無低割合については12.3%と目標達成した。今年度は難民申請者の全額減免を実施し、法人内他施設と協力し母国への帰国支援を行った。その結果、東京出入国在留管理局より感謝状が授与され、当院の無料低額診療事業に対し評価を頂く形となった。また、脳卒中教室については感染対策のため病棟にて入院患者を対象に開催していたが、患者家族向けにYouTubeでの視聴を開始し家族も研修を受けられる形となった。地域への活動については「地域で考える身寄りなし問題」をテーマになでしこ研修を開催した。職員向けの研修は例年通り開催し143名の参加を得ることができた。

2022年度の実績

- 委員会活動実績

  開催回数：12回開催(毎月第二金曜日)

- 委員会活動実績

  1．無料低額診療事業実績報告

  ①生保減免割合：2022年度　12.3%

  ②脳卒中教室：実施回数　45回

  延べ参加者　299名

  2．寿地区健診事業

  ⇒コロナウイルスのため中止

  3．なでしこプラン：なでしこ研修「地域で考える身寄りなし問題」

  参加者　36名

  4．無料低額診療事業研修会

  2022年3月1日～3月24日：

  参加者　143名(e-ラーニング開催)

17 薬事委員会

活動目的

病院長の諮問機関として、当院における薬品の採用、使用及び管理について、適正かつ効率的な運用の推進を図る為、審議を行うことを目的とする。

2022年度の活動総括

- 定例開催日
  毎月第２金曜日 16：00開催

院内の新規採用医薬品の申請・承認、院内採用医薬品の報告、薬剤副作用症状の報告、臨時採用医薬品の報告、採用医薬品の切り替え申請・承認、病棟常備薬の整備、救急カート内常備薬の整備、採用医薬品の整備等を行っている。

2022年度の実績

臨時採用医薬品の在庫整理を行い、なるべく余剰分の薬剤を在庫として残さないように、退院時処方等で整理した。また、採用医薬品の見直し・管理・整備も行っており、長期間使用されていない薬剤については適宜整理を行った。

採用医薬品については、より安価で、より使いやすく、より処方間違いをしないような薬剤に適宜切り替えを行った。

医薬品の廃棄については、救急カート等の常備薬の期限切れ等、適宜確認を行い、廃棄になる前に使用できるよう、管理・整備を行っている。また、臨時採用薬については、退院までに使い切るように周知した。

医薬品の副作用について、患者プロフィールに記載する等により薬剤師が確認出来るように、改めて院内周知を行った。

- 新規採用薬剤件数
  新規採用：１件
  臨時採用：67件

- 廃棄薬剤
  廃棄薬剤件数：27件

18 情報システム委員会

活動目的

院内の情報システムを適正な運用と管理を行う。

2022年度の活動総括

大きな障害なく運用した。

2022年度の実績

月に１回(年12回)委員会の開催。

19 保育室運営委員会

活動目的

済生会東神奈川リハビリテーション病院および済生会神奈川県病院に所属する全職員の乳幼児を対象とし、健やかに育成することを目的とする。

2022年度の活動総括

東神奈川リハビリテーション病院・神奈川県病院・日本デイケアセンター(かなっこ保育室運営会社)の職員で構成し、当院看護部長を委員長とし、隔月第４木曜日に委員会を開催。

本委員会は、保育室利用状況の確認、定期監査や保育室での季節イベント及び保育室から提案を受けた事項について毎回審議している。

今年度の月極では平均６名のお子様が在籍し、多い月では９名のお子様をお預かりした。

2022年度の実績

- 保育室利用者状況(延利用者数)
  - ・東神奈川リハビリテーション病院：計61名
  - ・神奈川県病院：計53名

- 季節イベント
  - ・６月　個人面談(月極のみ)
  - ・７月　七夕飾り、プール遊び
  - ・11月　昼食会→中止
  - ・12月　クリスマス会
  - ・３月　お別れ会(４名転園)

- 立入監査
  - ・10月３日(コロナの影響により書面審査)

20 人事委員会

活動目的

病院人事に関する重要な事項を審議し、もって人事の円滑な運用を図る。

2022年度の活動総括

2022年度は臨時の委員会ながら計17回の委員会の開催を行った。通例の病院組織、職員採用に係る人員計画、昇格等の人事関係について審議を行ったことに加え、昇格基準の見直しや人員確保に向けた取り組みとして職員紹介についての報奨金制度の再導入等を審議・導入した。

2022年度の実績

＊記載は省略

21 賞罰委員会

活動目的

当委員会は、病院長の監督に属し、その諮問に応じ、職員の表彰及び懲戒について調査審議するものとする。

2022年度の活動総括

2022年11月28日(月)　第１回賞罰委員会 実施

2022年度の実績

＊記載は省略

22 倫理委員会

活動目的

医療倫理の保持の的確を期する。

2022年度活動総括

2022年度の委員会は５回開催し、過去最も多く開催した年度となった。審議事例の実績をさらに積むことができた。

- 委員会開催　５回
- 臨床研究に伴う書面審査承認件数　８件

2022年度活動実績

○委員会

- 第１回倫理委員会　2022年５月26日(木)
  - ・倫理審査申請書の内容の審議
  - ・委員会規程の見直し
  - ・2022年度職員倫理研修内容決定
- 第２回倫理委員会　2022年６月９日(木)
  - ・倫理審査申請書内容の審議
- 第３回倫理委員会　2022年７月27日(木)
  - ・倫理審査申請書の内容の審議
- 第４回倫理委員会　2022年９月７日(木)
  - ・倫理審査申請書の内容の審議
- 第５回倫理委員会　2022年９月28日(木)
  - ・倫理審査申請書の内容の審議

○臨床研究

- 申請番号 22-01
  ロボットマニピュランダムKINARMを用いた感覚運動機能の評価ならびに中枢神経障害患者へのリハビリテーション手法の開発
- 申請番号 22-02
  脳卒中患者及び疾患別リハビリテーション区分ごとにおける日常生活動作レベルと運動機能の予後予測のための前向きコホート
- 申請番号 22-03
  頸部振動刺激が座位バランスとVirtual Realityを用いた視覚探索課題に与える影響
- 申請番号 22-04
  助詞の理解に影響を及ぼす因子の検討
- 申請番号 22-05
  脳卒中片麻痺患者に対する視覚刺激による運動錯覚と神経筋電機刺激の併用効果に関する研究
- 申請番号 22-06
  脳卒中患者に起こる痰飲後の転倒の要因検証ー歩行の適応的運動学習能力の関与ー
- 申請番号 22-07
  脳卒中患者に起こる痰飲後の転倒の要因検証ー歩行の適応的運動学習能力の関与ー(変更)
- 申請番号 22-08
  CBA(認知関連行動アセスメント)の評価

23 広報委員会

活動目的

当院の医療サービスに関する最新情報を患者さん、地域住民及び医療関係者に広く発信していくこと。

2022年度の活動総括

- 定例開催日
  毎月第２水曜日 16：00開催

2022年度の実績

- 委員会開催実績：11回開催
- 「病院年報2021」制作
- 病院ホームページの更新
- 病院機関紙の発刊（５月、10月、１月）
- 看護部案内のリニューアル
- 外来パンフレットのリニューアル
- 病院紹介動画の作成

24 NST委員会

活動目的

低栄養患者の把握と対応の検討、誤嚥性肺炎発症動向の調査と原因分析、誤嚥性肺炎や栄養状態およびリハビリテーション栄養に関する知識向上の機会を設定、「誤嚥性肺炎ゼロ」・「低栄養ゼロ」を目指すと同時に、全ての患者さんに訓練効果を高める為のリハビリテーション栄養管理を実践する。

2022年度の活動総括

- 定例開催日
  毎月第２金曜日 17：15開催

NSTの活動内容の整理、電子カルテのチーム医療としてNST患者の管理、病棟回診の実施と情報共有、摂食機能療法算定実施の整備、誤嚥性肺炎の分析等を行っている。

2022年度の実績

昨年度から引き続き、摂食嚥下・誤嚥防止等を中心に、院内の体制整備を行い、病棟回診により入院中の患者さんに対して素早い対応が出来る体制整備を行っている。

- 摂食機能療法：入院延6,807件・外来延16件
- 誤嚥性肺炎：入院延16名、外来延５名
- NST定期病棟回診
  毎月第２金曜日、第４水曜日 10：00開始
  介入患者数　10名

NSTが摂食嚥下認定看護師と共同で以下の通り活動。

- 摂食機能療法のスクリーニングシートの改定
  ・FOIS評価を導入したテンプレートの運用開始。

• 嚥下機能に対応した内服の留意点の更新・周知
　・資料作成、周知。さらに済生会薬剤師会で情報共有。
• NST回診報告様式の統一化。
　・栄養治療実施計画兼栄養治療実施報告書の運用開始。
• 食器、食具類の検討
　・丸平皿の変更、Uコップの導入検討。

25 ボランティア委員会

活動目的

ボランティア活動を希望する個人又は団体を広く受け入れ、地域社会とともに患者さんに、よりきめ細かいサービス提供及びケアの質の向上を図り、病院を側面から支援し、地域に密着した病院の運営を図る事を目的とする。

2022年度の活動総括

当院の敷地には、バス停前やその周辺に花壇があり、開院当初から当院の園芸チームが花壇の手入れや花植えなどを継続的に行ってきた。その影響もあり、花壇をボランティアで支援をしたいとの声が以前よりあがっていた。したがって、ボランティアの受け入れ体制を整備するため、ボランティア委員会を2022年３月に立ち上げた。2023年度の開始に向けて、３名のボランティア申し込みがあり、委員会で審議の上、受け入れることとなった。

2022年度の実績

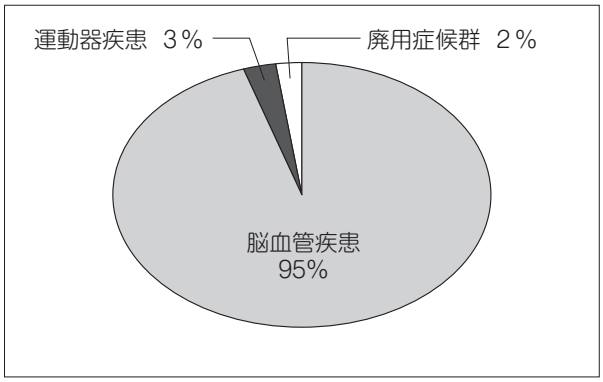
• 2023年３月10日
　ボランティア委員会開催
• 2023年３月24日
　花壇に植える花苗およびボランティア必要物品購入

第Ⅲ章

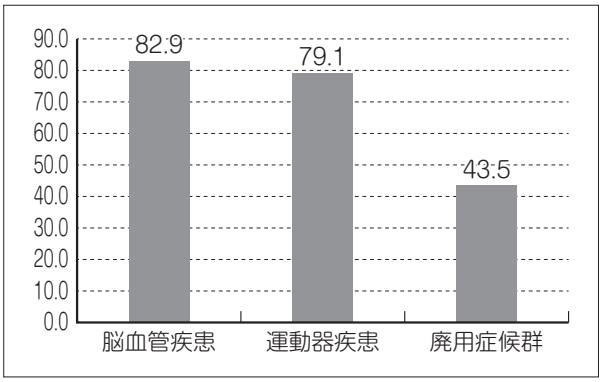
医療統計

患者統計

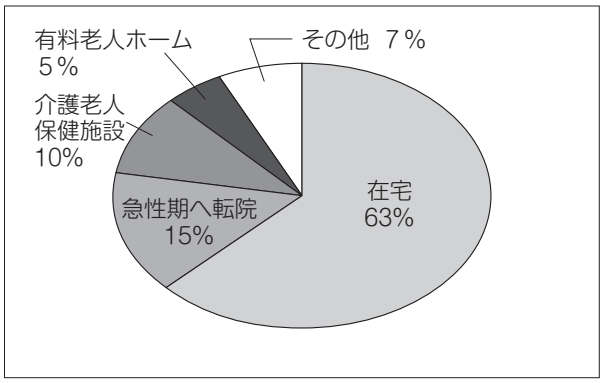
1．疾患別患者内訳



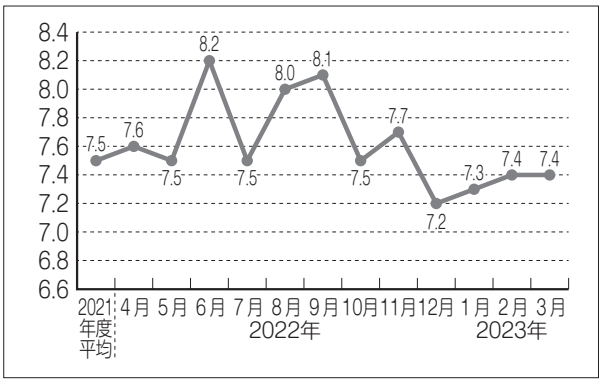
2．疾患別平均入院日数



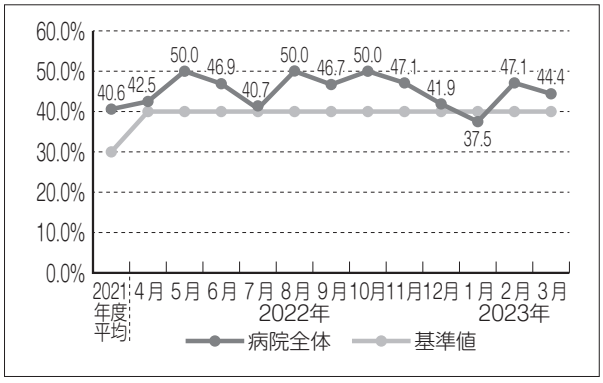
3．転帰先内訳



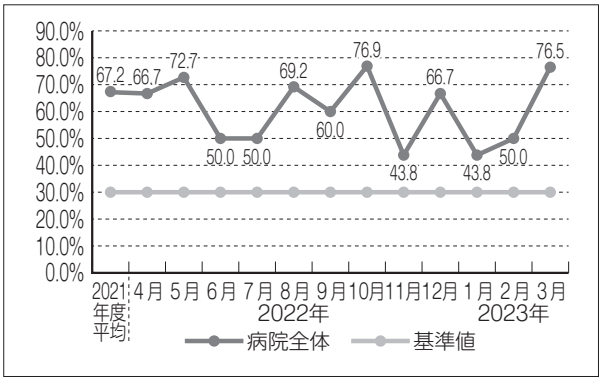
4．入院１日平均リハビリ単位数



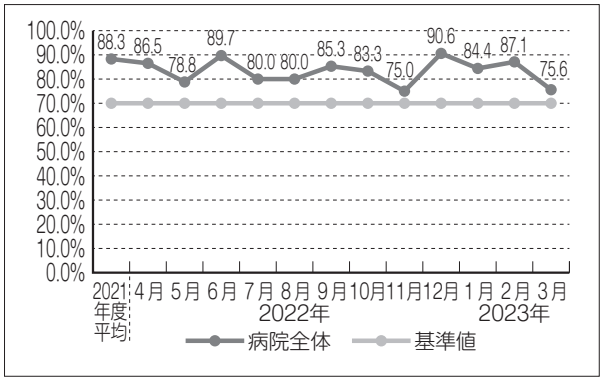
5．重症入院患者割合



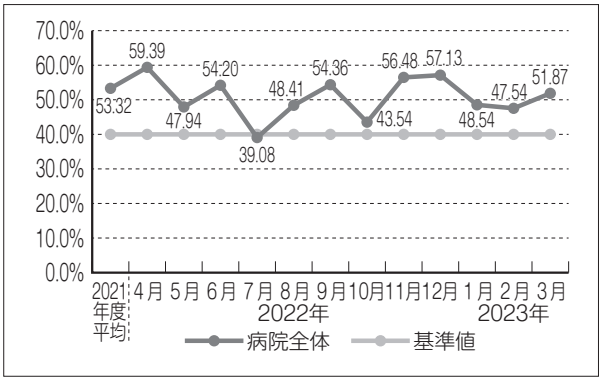
6．重症患者改善割合



7．在宅復帰率



8．実績指数



入院患者（紹介元病院、居住地）

◎2022年度 入院患者年齢別内訳

N＝572

	人 数	割 合
10代	1	0.2%
20代	11	1.9%
30代	16	2.8%
40代	66	11.5%
50代	111	19.4%
60代	105	18.4%
70代	146	25.5%
80代	97	17.0%
90代	19	3.3%
100代	0	0.0%

◎2022年度 入院患者居住地別内訳

N＝572

	件 数
神奈川県横浜市神奈川区	144
神奈川県横浜市港北区	97
神奈川県横浜市鶴見区	60
神奈川県川崎市中原区	41
神奈川県横浜市中区	37
神奈川県横浜市保土ケ谷区	32
神奈川県横浜市旭区	28
神奈川県横浜市西区	28
神奈川県川崎市高津区	21
神奈川県横浜市緑区	12
その他	72

◎2022年度 入院患者紹介元

N＝572

	総　計
脳神経外科東横浜病院	100
横浜市立市民病院	71
東部病院	70
関東労災病院	52
横浜労災病院	47
聖マリアンナ医科大学東横病院	38
菊名記念病院	26
横浜中央病院	24
神奈川県病院	23
横浜市立みなと赤十字病院	20
その他	101

第Ⅳ章

研究実績

研究実績

◎2022年度 学会・研修会・勉強会・講演会発表実績

演　題　名	発表会名称	開催日	開催地	発表者	職種名	共同研究者
Impact of intensive rehabilitation on medhical costs and readmission after discharge in sub-acute stroke patients : An instrumental variable analysis of a retrospective cohort	18th WFOT Congress	2022年 8月28日～31日	オンライン	武田　大勢	作業療法士	
Relationship between life satisfaction and mental health of japanese occupational therapist 6 months after the COVID-19 pandemic	18th WFOT Congress	2022年 8月28日～31日	オンライン	田原　正俊	作業療法士	
長期化するCOVID-19パンデミック下における精神的健康状態と生活満足度の関連ー第１回と第３回緊急事態宣言下での横断的調査ー	第56回 日本作業療法学会	2022年 ９月17日 土曜日	オンライン	田原　正俊	作業療法士	
病院のホームページ作成の経験を通して意志と習慣化が変容しプログラマーとして復職を果たした事例	第56回 日本作業療法学会	2022年 9月16日～19日	京都府	村山　　潤	作業療法士	
COVID-19感染拡大による緊急事態宣言が作業的公正／不公正の状態と精神的健康状態および生活の満足度に与える影響	日本作業科学研究会 第25回 学術大会	2022年 10月22日～23日	オンライン	田原　正俊	作業療法士	
アンケートフォームを活用した自主練習を導入した外来作業療法の試み	第５回 済生会リハビリテーション研究会 in 小樽	2022年 10月23日 日曜日	北海道	田原　正俊	作業療法士	
脳卒中後の重度運動麻痺に対する、自主練習における電気刺激療法の影響	第５回 済生会リハビリテーション研究会 in 小樽	2022年 10月23日 日曜日	北海道	武田　大勢	作業療法士	
手指機能訓練支援ロボット(AMADEO)での訓練を導入し、手内筋筋力向上と巧緻動作の能力向上に至った頸髄損傷の１例	第５回 済生会リハビリテーション研究会 in 小樽	2022年 10月23日 日曜日	北海道	御子柴大地	作業療法士	
眼鏡屋への復職と趣味であるカメラ撮影の獲得を目標にした事例	第５回 済生会リハビリテーション研究会 in 小樽	2022年 10月23日 日曜日	北海道	神藤　星那	作業療法士	
COVID-19パンデミック下における精神的健康状態と生活満足度への長期的影響ーリハビリテーションセラピストを対象とした連続的横断調査ー	第75回 済生学会	2023年 2月11日～12日	神奈川県	田原　正俊	作業療法士	
背景が偏倚するvirtual realityを用いた介入が回復期脳卒中左片麻痺患者の空間認知と立位バランスに与える影響	第６回 日本リハビリテーション医学会秋季学術集会	2022年 11月5日 土曜日	岡山県	岩川　一茂	理学療法士	
長下肢装具の足継手の機能の違いが脳卒中者の歩行に及ぼす影響	第38回 日本義肢装具学会 学術大会	2022年 10月9日 日曜日	新潟県	田中　惣治	理学療法士	
踵補高が歩行に及ぼす影響ー視床出血後に下腿三頭筋の筋緊張亢進を認めた症例についてー	第38回 日本義肢装具学会 学術大会	2022年 10月9日 日曜日	新潟県	飛田　　朗	理学療法士	

演　題　名	発表会名称	開催日	開催地	発表者	職種名	共同研究者
卒前から卒後までの装具療法にかかわる人材の育成	第11回 日本支援工学理学療法学会学術	2022年 12月3日 土曜日	オンライン	中村　学	理学療法士	
シンポジウム「装具フォローアップと地域連携	第10回 効果をあげる理学療法技術としての装具療法を考えるフォーラム	2023年 3月11日 土曜日	東京都	中村　学	理学療法士	
脳卒中者の歩行を表面筋電計で計測する意義	第26回 栃木県理学療法士会学術大会	2022年 11月27日 日曜日	オンライン	田中　惣治	理学療法士	
右被殻出血後の下腿三頭筋の痙縮に対し、物理療法に併用してリドカインの筋肉注射を行うことにより歩行能力に改善を認めた症例	日本物理療法合同学術大会2023 物理療法の評価と治療　ー測る・理解する・変えるー	2023年 2月18日 土曜日	東京都	林　翔太	理学療法士	
疾病・障害特異的理学療法の実際（技術編5）装具療法の実際	認定理学療法士臨床認定カリキュラム講習会	2022年 6月19日 日曜日	オンライン	田中　惣治	理学療法士	今村朋博、林　翔太、篠田洋平
センシング技術を活かした理学療法評価	第1回 先端技術を活かした効果的な理学療法を考えるフォーラム	2022年 9月18日 日曜日	オンライン	田中　惣治	理学療法士	
装具療法を臨床場面において活用する上で必要な基礎知識	今さら聞けない装具療法	2022年 12月11日 2023年 1月22日	東京都	田中　惣治	理学療法士	
入職して3か月経過した新卒職員の多職種連携に対する評価	第15回 日本保険医療福祉連携教育学会	2022年 11月13日 日曜日	オンライン	藤原佐和子	看　護　師	
回復期リハビリテーション病院で新卒看護師を育成するためのプリセプターへの支援の分析	人材育成学会	2022年 12月11日 日曜日	オンライン	藤原佐和子	看　護　師	

◎2022年度 誌上発表等実績

題　名	雑誌／書籍／広報誌 名称．巻(号)．出版社	著　者　名	職種名
作業を基板とした実践を通して円滑な多職種連携での復職支援につながった高校教師の事例	学術誌臨床作業療法研究／日本臨床作業療法学会	小池　真愛、田原　正俊	作業療法士
・巣状分節性糸球体硬化症・膜性腎症・微小変化型ネフローゼ症候群	済生会本部ホームページ内のコンテンツ「症状別病気解説」	大江　健二	医師

2022年度（令和４年度）
東神奈川リハビリテーション病院　年報

発　　行　〒221-0822 横浜市神奈川区西神奈川１丁目13番地10
社会福祉法人恩賜財団済生会支部神奈川県済生会
東神奈川リハビリテーション病院
電話（045）324-3600　FAX（045）324-3555
URL　https://higashikanagawa.saiseikai.or.jp
発行責任者　院長 江端　広樹
編　　集　広報室
編集責任者　三浦　治己
発 行 日　2023年９月

社会福祉法人 SAISEIKAI HIGASHIKANAGAWA REHABILITATION HOSPITAL
恩賜財団 済生会東神奈川リハビリテーション病院